

なるほど！子どもアカデミー

2015 年度活動報告書

目次

「なるほど！子どもアカデミー」活動の趣旨と概要.....	1
土曜チャレンジ・アップ教室を振り返って.....	2
I 土曜チャレンジ・アップ教室	
1. 土曜チャレンジ・アップ教室の概要.....	3
2. 活動報告①春日井市立 KI 小学校.....	38
3. 活動報告②春日井市立 MA 小学校.....	54
4. 活動報告③春日井市立 KA 小学校.....	70
5. 学生及び教員からの意見.....	80
II 夏季学習支援	
1. 夏季学習支援の概要.....	85
2. 学生及び教員からの意見.....	85
成果公表.....	88
新聞報道.....	88
付記.....	88
あとがきにかえて.....	91

「なるほど！子どもアカデミー」活動の趣旨と概要

なるほど！子どもアカデミー代表 高木 徹

「なるほど！子どもアカデミー」は、教師をめざす児童教育学科の学生たちが、小学生に楽しく分かりやすく学習を支援する課外活動です。2013年度から活動が始まりました。

児童教育学科では2年次秋学期に小学校で「観察実習」を行い、小学校現場の雰囲気に慣れたうえで、3年次春学期に「小学校教育実習」に臨みます。ただ「観察実習」では授業を担当することはできず、「小学校教育実習」で初めて授業を担当する学生たちにとっては、いろいろと戸惑うことも多いと思われます。そこで、「小学校教育実習」の前に、子どもたちに教える機会をつくりたい、という狙いで始められたのがこの活動です。

2015年度は春日井市教育委員会主催の土曜チャレンジ・アップ教室及び夏季学習支援を開催しました。土曜チャレンジ・アップ教室では、春日井市立小学校3校に出向き、小学4年生から6年生までの子どもたちを対象に、月に1回土曜日にセミナーを実施しました。当日までに、学生スタッフは何週間も担当教員のもとで研修を受け、教科学習のほか、授業構成や制作物の指導などを学び、子どもたちに伝えるかにはどのような工夫が必要かを検討しました。夏季学習支援では、春日井市立小学校1校へ出向き、小学1年生から6年生までの子どもたちを対象に、3日間算数を中心とした学習支援を実施しました。土曜チャレンジ・アップ教室と同様に、事前に算数学習に対する指導研修を受講した学生が指導補助スタッフとして参加しました。両活動ともに、活動の経緯や具体的な出来事を記録し、講座終了後には報告会を実施し、講座内容の振り返りと今後の課題を見出し、本報告書を作成しました。

この一連の活動が2015年度の子どもアカデミーの活動です。学生は、小学生の様々な分野の学習をきちんと支援できるよう、大学の授業以外の時間にも準備を重ねており、その準備には、児童教育学科の教科専門の教員たちが強力にバックアップしました。

最後となりましたが、2015年度の活動は春日井市教育委員会及び春日井市立小学校の学校長をはじめとする多くの方々のご支援を得て活動できたことに感謝申し上げます。このような活動は、学生たちやそれを支える教員の地域貢献の場であると同時に、学生の教育実践力を育てる貴重な機会の場でもあります。今後も持続的に本活動を推進していきたいと考えています。

「なるほど！子どもアカデミー」教員組織（2015年度）

教授	高木 徹		
	吉田 直子	三島 浩路	
准教授	小笠原 豊	橋本 美彦	小池 嘉志
	長尾 寛子	古市 真智子	
講師	味岡 ゆい		

土曜チャレンジ・アップ教室を振り返って

春日井市教育委員会事務局

学校教育課長 勝 伸博

児童教育学科の学生の皆様、そして吉田直子先生を始め教員の皆様、1年間どうもありがとうございました。特に、味岡ゆい先生と各グループ・リーダーの学生の皆様には、土曜チャレンジ・アップ教室の運営にあたり、綿密な打合せを重ねていただき深く感謝いたします。

今回の取り組みは、貴大学なるほど！子どもアカデミーの活動で培ったノウハウを活かしていただき、中部大学と春日井市のタイアップにより実現したものです。

平成14年度から土・日曜日を休業日とする学校週5日制が完全実施され、13年が経過しました。当初、土・日曜日を活用して子どもたちに家庭や地域社会で生活体験や社会体験、自然体験など様々な活動経験により、「自ら学び、自ら考える力」や豊かな人間性などの「生きる力」を育むことが求められました。現在、子どもたちを取り巻く環境は整っているのでしょうか。

習い事やスポーツ活動などの体験活動に恵まれている子どもたちがいる一方で、必ずしも有意義に過ごせていない子どもたちも少なからずいると考えています。豊かな人間性を育む体験学習は、平日の授業に多く組み込むことは難しく、子どもたちが休日等に地域で学ぶ環境を整えることは、普段の授業における学習意欲向上にもつながると考えています。

人間形成には、タテ、ヨコ、ナナメの関係づくりが重要であり、子どもたちにとっても、大人にとっても、その機会が身近にあることは、学校教育のみならず、福祉や生涯学習などのまちづくり施策においても大切な視点であると思います。

土曜チャレンジ・アップ教室では、親でも兄弟でも先生でもない、大学生の皆様と子どもたちのナナメの関係づくりのもと、子どもたちの幅広い成長が促されるものと期待しています。そして、教師となることをめざす皆様にとっても、多くの気づきを得て、自らの研究活動が深まることを期待しています。

春日井市は、誰もが「住みたい、住み続けたい、住んでよかった」と実感できるまち「春日井」のさらなる発展のために、今後とも貴大学を始め、あらゆる方々との関係を大切にしながら各種施策に取り組んでまいります。皆様には、土曜チャレンジ・アップ教室の活動をきっかけにして、春日井市を好きになっていただければ幸いです。

参加した子どもたちや校長、教頭、そして、当課職員ともに、わくわくする感動と将来への希望の光をいただきました。本当にありがとうございました。

I 土曜チャレンジ・アップ教室

1. 土曜チャレンジ・アップ教室の概要

(1) 活動の経緯・趣旨

本年度は、春日井市立 KI 小学校・MA 小学校・KA 小学校にて、土曜日の午前中 2 時間を用いて、活動を実施した。対象は 4～6 年生。「楽しくてちょっと学べる土曜日学習」をテーマに、児童らが小学校で学習した内容を活かした企画設定を目指し、学習内容の応用を通して、児童らの発展的発想力を養うことが活動のねらいである。本活動は、春日井市教育委員会学校教育課の仲介と支援のもとに実施した。

(2) 学生組織

子どもアカデミー参加学生を 3 チームに分け、チームごとに春日井市立 KI 小学校・MA 小学校・KA 小学校を担当した。1 チームをさらに 2 グループに分け、企画運営する主担当グループと補助グループとして企画を遂行した。また、小学校ごとにチームリーダーを 1 人選出し、内 1 人をアカデミー全体リーダーとした。

今年度の土曜チャレンジ・アップ教室では、52 名（1 年生 25 名、2 年生 16 名、4 年生 7 名）の学生が参加した。

(3) 活動スケジュール

土曜チャレンジ・アップ教室は基本的に月に 1 回、土曜日の午前中に小学校へ学生が出向き行った。企画の準備は全体会にて学生間で日程を決め、実施した。全体会及び企画の日程は表 1 である。

表 1. 2015 年度土曜チャレンジ・アップ教室スケジュール

全体会	KI 小	MA 小	KA 小
4/2 新入生募集 4/8 子どもアカデミー2015 説明会グループ分け 4/15 全体会			—
6/17 全体会	6/6 下村 G 「オリジナル草木染作品を作ってみよう！」 参加学生数：12 名 [高木・吉田・味噌]	6/13 木村 G 「オリジナル草木染作品を作ってみよう！」 参加学生数：10 名 [吉田・味噌]	6/27 瀬古 G 「オリジナル草木染作品を作ってみよう！」 参加学生数：15 名 [吉田・味噌]
7/15 全体会	7/4 佐々木 G 「葉脈標本でフォトフレームを作ってみよ	7/11 松岡 G 「葉脈標本でフォトフレームを作ってみよ	—

	う」 参加学生数：14 名 [吉田・味岡]	う」 参加学生数：12 名 [味岡]	
9/14 全体会	9/12 武居 G 「生活に潜むネイチャーテクノロジーをさがせ！」 参加学生数：10 名 (3～6 年生) [味岡]	9/19 川村 G 「ちりめんモンスターをさがせ！」 参加学生数：10 名 (1～6 年生) [味岡]	9/5 塚原 G 「葉脈標本でフォトフレームを作ってみよう」 参加学生数：15 名 [味岡]
10/21 全体会	10/10 下村 G 「和風照明を作ろう！」 参加学生数：6 名 [長尾]	10/17 木村 G 「道風をめざせ！ - 筆を使って、詩を書こう -」 参加学生数：9 名 [高木]	10/3 瀬古 G 「Paper Cube-算数工作-」 参加学生数：13 名 [味岡]
11/25 全体会	11/7 小森 G 「道風をめざせ！ - 筆を使って、詩を書こう -」 参加学生数：10 名 [高木]	11/14 松岡 G 「Paper Cube-算数工作-」 参加学生数：8 名 [吉田]	10/31 山崎 G 「和風照明を作ろう！」 参加学生数：14 名 [味岡]
12/16 全体会	12/5 浅井 G 「Paper Cube-算数工作-」 参加学生数：12 名 [吉田]	12/12 飯沼 G 「和風照明を作ろう！」 参加学生数：10 名 [三島]	—
1/6 全体会	1/16 佐々木 G 「走れ！リニアモーターカー」 参加学生数：8 名 [味岡]	1/23 松岡 G 「オリジナル人工いくらを作り出そう！」 参加学生数：8 名 [小笠原]	—
	2/13 鈴木 G 「オリジナル人工いくらを作り出そう！」 参加学生数：8 名	2/20 木村 G 「走れ！リニアモーターカー」 参加学生数：9 名	2/6 山崎 G 「マジックキャンドルを作ってみよう！」 参加学生数：13 名

	[小笠原]	[古市]	[橋本]
3/25 全体会	3/12 稲垣 G 「マジックキャンドル を作ってみよう！」 参加学生数：10 名 [吉田]	3/19 池林 G 「マジックキャンドル を作ってみよう！」 参加学生数：8 名 [小笠原]	—

(4) 企画に対する募集申し込み及び企画計画書

土曜チャレンジ・アップ教室 2015 で提案した企画は 10 種類である。

① オリジナル草木染作品を作ってみよう！（企画指導 味岡）

以下では、6 月 6 日（土）KI 小学校で行った企画計画書を記した。同内容は 6 月 13 日（土）では MA 小学校、6 月 27 日（土）では KA 小学校で行った。

6 月 6 日（土）

テーマ：新作開発！染物工房！！

分	習活動	手だて・注意点	学生の行動
9:00	1 あいさつと注意事項 指導係（下村・窪田） ・あいさつ ・学生の紹介 ・今日守ってほしい注意事項 3 つ （体調不良・禁止区域・話聞く） ・本時で使う材料の確認とどんな色になるか予想させる。	・草木染をどれくらい知っているかの確認 ・児童に聞きながらおもしろく パワポを活用 ・各班に鍋に入れる前の材料を用意し色の予想の参考にさせる。 ・名前を布に書くことをうながす（パワポ） ・布を豆乳に浸していることを伝えない。	下村：司会 （窪田補助）
9:10	2 模様をつける（絞る） 指導係（情剛）	・どんな模様にするか考える ・鍋を入れると自分の布がどれかわからなくなってしまうので、それぞれ色を決めて、その色の輪ゴムを使うように注意する。 ・布は学生が投入する。	情剛：司会 （鈴木補助）

9 : 40	3 布を染色液・媒染液に入れる。 指導係（情剛）	・15分染色し、トイレ休憩後ミョウバンを入れる。 ・ミョウバンを入れる前に豆乳とミョウバンの説明。	
9 : 50	トイレ休憩5～10分	ホワイトボード・プラカード準備	
10 : 00	4 草木染に関するクイズ 指導係（窪田・下村） ・草木染の始まり ・草木染の色 ・染料	・パワーポイントを使いクイズ形式 ・プラカードを使う。拍手ORホワイトボードで回答。 ①鈴木 ②佐々木 ③岡崎 ④⑤情剛	窪田：司会 （下村補助）
10 : 20	5 紐をつける・布の洗浄 指導係（鈴木・岡崎・川口）	・紐を竹につける。 ・児童が手を火傷しないよう、鍋から取り出した布は、バケツの水で少し冷めます。 ・袖をまくるように言う。	鈴木・岡崎・川口 ：司会・補助
10 : 30	6 乾かす	・児童の力ではしっかり絞れないかもしれないので学生が確認する。 ・竹の棒を安全ピンでつけるときも様子を見て手伝う。 ・できた作品は、最後まで手でもっておいてもらう	
10 : 45	7 まとめ 指導係（下村）	・どんな作品を作ったか数人に発表してもらう。 ・児童の名札の紙の裏に感想を書き、それから名札を回収することを伝える。 ・草木染について知ってほしいこと連絡。 ・認定証は名札と交換で渡していく。	下村：司会 机担当者： 名札回収・認定証配付

土曜チャレンジ・アップ教室

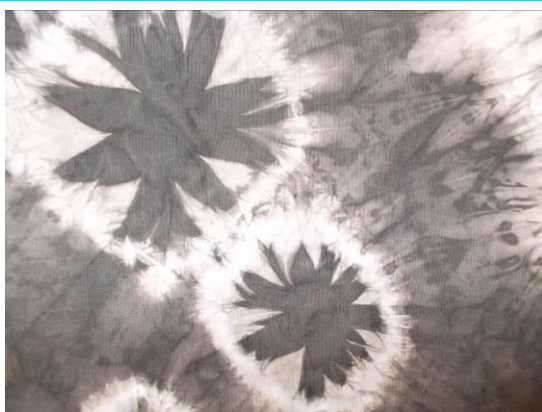
草木染めは、自然にある植物の葉や樹皮などの色素を使って布を染める方法です。

クイズ

- 1 紅花＝赤色
- 2 紫草＝紫色
- 3 アジサイ＝どんな色？



身の回りの植物で
カラフルなハンカチを
作ってみよう



できあがったハンカチは
家に持って帰れるよ♪

6月6日(土)9:00～11:00

KI 小学校(家庭科室)

中部大学の学生が指導します。

- ※ 保護者の送り迎えをお願いします。
- ※ お子様のみでの参加となりますが、保護者も見学はできます。
- ※ お子様に上靴を持たせてください。

4～6年生
(30 名程度)

(きりとり)

切り取って、〇月〇日(金)までに職員室の前の応募箱に入れてください。

児童

年 組 名前

保護者

名前

電話番号

※申込み多数の場合は抽選となります。

※抽選の有無に関わらず、結果をお手紙で連絡させていただきます。

申込み

②葉脈標本でフォトリフレックスを作ってみよう（企画指導 橋本・味岡）

以下では、7月4日（土）KI 小学校で行った企画計画書を記した。同内容は7月11日（土）ではMA 小学校、9月5日（土）ではKA 小学校で行った。

7月4日（土）

企画テーマ：葉脈標本でオリジナルしおり作り！

分	学習活動	手だて・手順	学生の行動
		・川口さんから開始の合図	
9：30	1 あいさつと導入（佐々木） ・あいさつと決まりについて ・研究員紹介 ・みかんの缶詰の話 ・葉脈について簡単な説明	・起立→礼→着席 ・元気にあいさつ。前回の話を織り交ぜながらも、危険が伴うことを説明。 （手拍子ルール） ・学生の紹介は各班に配置した研究員が一人ずつ簡単な自己紹介 ・みかんの缶詰を利用した導入。 なぜあんなにきれいに皮がないのか？どうやって皮をむいているのか？ ・葉脈がどんなものか簡単に説明。	佐々木・司会 松田・スライド （佐々木：ピーカーへ着火）
9：40	2 道具説明と煮込み ・道具の説明 ・手順（1）（2）を行う ・実験に関するクイズ	・使う道具について簡単な解説を行う ・薬品や安全ゴーグルについてはしっかり。 ・煮込む作業まで行う。薬品は研究員がしっかりと監督を行うよう注意する。 ・クイズに入る前に煮込んでいる水溶液の色を確認。最終的に何色になるかを予想させる。 ・①水酸化ナトリウムに入れても解けないものは？	宮部・司会 宮部・演示説明 （佐々木：煮出す管理）

9:50	・葉脈を塩酸で中和	・②水酸化ナトリウムを無害にする方法が存在する ○か×か ・③・④あり。時間調整。 ・⑤それではここまで煮込んだ水溶液は何色になったでしょうか?? (ここまでにしっかり煮込みたいのでクイズは時間いっぱい MAX20 分ほど使ってほしい) ・煮込んだ葉脈をピンセットで取り上げ、塩酸にくぐらせる。数秒後水槽へ浸しておく。	吉岡・司会 (佐々木：煮出す完了を合図) 吉岡・演示説明 ・演示中に、机に葉とバット用意
10:00	・手順（４）を行う。	・各班水槽の中で葉肉をはがす作業を行う。 ・キッチンペーパーの入ったバットに葉脈を置く。	小森・司会・演示説明
10 : 30	・休憩	・休憩指示を行う。はしゃぎすぎない	・教卓上試薬処理【松岡】 【小森】 ・各班の水槽処理。網に通して水を捨てる。1・2・3 班→コンロ 2 の水道 4・5・6 班→コンロ 5 の水道 各班担当者【徳田】【鈴木】 【宮部】【吉岡】【小森】【下村】。
10 : 40	・今回の実験に関する科学的な説明。	・なぜ葉肉がはがれるのか。なぜ葉脈は解けないのか。なぜピーカーやガラス棒は解けないのか。 ・冒頭のみかんの缶詰の説明など。	稲垣・司会
10 : 45	・手順（５）を行う。	・説明（６）を行う。 ・①②③班は黒板側、④⑤⑥班は反対側の染料置場へ移動し、好きなように色を付けさせる。服につ	小森・司会

		かないように注意。新聞紙を引く。 ・混雑が予想されるため染料は多目が良い。	
11:05	① ② ③班はしおりづくり ④ ⑤ ⑥班はフォトスタンドづくり 交代して作業	・各班分かれて作業。ラミネーター3台は教卓に用意してあるため、列形成をして一人ずつプレスする。(監督2名) ・フォトフレームを各班に配布し各機で作業させる。	・ラミネーター監督 (【平野】【山崎】)
11:20	まとめ ・感想記入とあいさつ ・記念撮影 ・次回予告	・各班名刺の裏に感想を記入させる ・両手に完成したしおりとフォトスタンドを持って記念撮影 ・次回「生活に潜むネイチャーテクノロジーをさがせ！」9/19 ・起立→礼→解散	佐々木に交代
11:30	見送り。 片づけ	・児童が荷物をまとめたら、廊下に集合させ、全員がそろったら1G全員が昇降口へ誘導する。G1先頭【浅井】 - 指示：佐々木	
12:00	完全撤収		

土曜チャレンジ・アップ教室

植物の葉には、栄養分や水を運ぶために、強い繊維で守られた管（葉脈）が通っています。
植物の葉をアルカリ性の液体で煮込んで、葉脈だけを残した、きれいな標本を作ってみましょう。



できあがった作品は
家に持って帰れるよ♪

葉脈標本で
フォトフレームを
作ってみよう

7月11日(土)9:30～11:30

MA 小学校(家庭科室)

中部大学の学生が指導します。

- ※ 保護者の送り迎えをお願いします。
- ※ お子様のみでの参加となりますが、保護者も見学はできます。
- ※ お子様にお靴を持たせてください。

4～6年生
(30名程度)

(きりとり)

切り取って、〇月〇日(金)までに職員室の前の応募箱に入れてください。

申

込

み

児童

年 組 名前

保護者

名前

電話番号

※申込み多数の場合は抽選となります。

※抽選の有無に関わらず、結果をお手紙で連絡させていただきます。

③ 生活に潜むネイチャーテクノロジーをさがせ！（企画指導 味岡）

以下では、9月12日（土）KI 小学校で行った企画計画書を記した。

9月12日（土）

テーマ：生活に潜むネイチャーテクノロジーをさがせ！

時間	児童の行動	学生の行動
導入 9:30 (5分)	・チャイム ・起立→礼→着席 ・注意点（禁止区域、危険行為、体調が悪くなったら伝えること）を聞く。 ○生活に潜むネイチャー・テクノロジーを探せ！！ ・ネイチャー・テクノロジーについて説明を聞く。	・設定を伝える。（研究所） ・パワーポイントを使って確認。 ・例えば、蚊に刺されるとかゆくなるが、痛くはありません。この蚊の持つ技術を使って、刺しても痛くない注射針が作られました。 このように生き物持つすごい技術や構造を、人の役に立つように開発された技術のことをネイチャー・テクノロジーといいます。
展開① 9:35 (17分)	例①ヨーグルトの蓋に使われている生物の技術は何だろう。 ビヒダスヨーグルトの蓋には、絶対にヨーグルトが付きません。試してみましょう。 ・活動内容、注意点、班の中でヨーグルトを振る順番などの説明を聞く。 ・バットを取りに来る。 (指定された番号の児童) ・ダノンヨーグルトとビヒダスヨーグルトを自由に振る。	・2種のヨーグルトを見せながら、活動内容を説明。（学生も活動に参加） ・パワーポイントを使って注意点を言う。 ・ダノンヨーグルト 1 つ、ビヒダスヨーグルト 1 つ、キッチンペーパー2枚の入った<u>バット①</u> ・2種のヨーグルトを1人5秒ずつ同時に振るよう、学生は声掛け。 (5秒数える×6人分/学生含む)

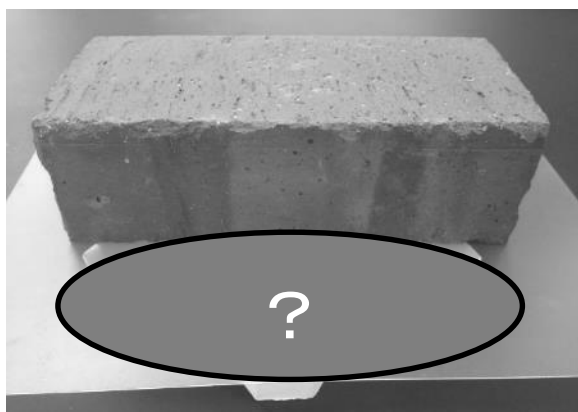
	・ 2 種のヨーグルトの蓋をすすぎ洗いし、キッチンペーパーで拭く。(指定された番号の児童) ・ 観察する。 ・ ハスの葉の構造の拡大図とビヒダスヨーグルトの蓋の構造の拡大図を見る。 ・ ビヒダスヨーグルトの蓋には、ハスの葉の技術が使われているということを、図を使い説明を聞く。	※始めから終わりまで 【武居】一斉指示のもと 25 秒間行う。 【学生】 ・ 自分の班の容器のみを回収し、教室の後ろの作業台へ持っていく。 ・ 各班で使ったものをすべてバットに入れ、教室の後ろの作業台に集める。 ・ 【武居】説明する。(ハスの葉とビヒダスヨーグルトの蓋の拡大図を見せながら)
展開② 9 : 42 (25 分)	例② 3 つの写真に使われている生物の技術は何だろう。 ・ 新幹線、飛行機、サッカーゴールネットの写真を見せる。 ○ 共通点はなんだろう。 ・ 共通点が六角形のつながったもの (=ハニカム構造) であることの確認をする。 ・ ハニカム構造の説明を聞く。	・ 新幹線、飛行機、サッカーゴールネットの写真を黒板に貼る。 ・ 意見が出ないようであれば……写真をよく見て、どんな形が使われているかという点に注目させるよう、声掛けをする。 (それでも出ない = 答えを言う) ・ 新幹線の床に使われているハニカム構造を例にして説明する。 (たくさんの人を乗せる新幹線は、もちろん丈夫でないとはいえないよね。) = 重さに耐える力がとても強いことを説明する。
	15 個のハニカム構造にどれだけの重さが耐えられるか調べてみよう。	

	・作り方を聞く。 ・注意事項を聞く。 ・バットを取りに来る。(指定された番号の児童) ・六角形を作る。(15 個) ・学生に組み立ててもらった班から、休憩へ ・トイレ休憩と水分補給	・作っている工程の写真を黒板に貼りつつ、説明をする。 ・パワーポイントで注意事項を映す。 ・材料の入った<u>バット②</u> (型紙 15 個作る分、はさみ 5 本、のり 5 本) ・学生は組み立てていく。 ・飲み物と紙コップを教卓の上に準備する。 ・体調が悪い児童がいないか確認。 ・前半の板書で使ったフラッシュカードなどを片付けておく。 【佐藤】各班の集めた容器を教室の後ろの作業台のタッパーに入れておく。
展開③ 10 : 20 (30 分)	・バットを取りに来る。(指定された番号の児童) ・どれだけ耐えられるかミニホワイトボードに予想を書く。 ・書けたら、ホワイトボードを頭上にあげる。(終わったことのサイン)	・<u>バット③</u> (下敷き 1 枚、ミニホワイトボード 1 つ、マーカー 1 本、激落くん 1 つ、使える重さ・個数表 1 枚)
	ここで一旦、予想を立てることを止めさせる。	
	・実験のやり方を聞く。 ・実験の注意事項を聞く。 ・活動開始する。 ・早く終わってしまった(ハニカム構造がつぶれてしまった) 班は、	・どうやって持ち上げるか、実演 (500ml ペットボトルを使う) 説明する。 ・パワーポイントで表示。

	予想とは別でのせることが出来た Kg を記入する。 - 各班どれだけのせることが出来たホワイトボードに書かせ、頭上に掲げる。 ☆自分の体は六角形いくつ分で支えることができるのだろうか。(発展課題) 【武居】の実演を見る。 (3・4 班の机の間で行う。) - 注意事項を聞く。 ☆ぜひ、お家の人やお友達とやってみよう。(発展課題) ※時間が余ったら - お土産の中から、出来るところまで作る。	15 個のハニカム構造で大体の耐えられる Kg を全体の班の結果を見て約○Kg と板書する。 - 見えない子には、席を移動するように声掛けをする。 - この時に使うハニカム構造の個数は伝えず行う。 注意①周りに人や物がないことを確認してから行うこと。 注意②2～3 人で支えあいながら行うこと。(注意 2 つは口頭) - お土産を渡す。(型紙 7～8 枚、ハニカム構造を 10 個つなげたもの 1 つ、作り方の書いた紙 1 枚、透明アクリル板 1 枚) ※時間が余るようであれば、自分のお土産の中から型紙を取り出し、出来るところまで作らせる。
まとめ 10:50 (10 分)	○生活に潜むネイチャー・テクノロジーを探ることが出来たか確認する。 名札の裏に感想を書く。 ・チャイム ・起立→礼→着席	- 生活に潜むネイチャー・テクノロジーをクイズ形式で出題。 - 名札の裏に感想を書いている間に、次回予告を行う。【下村】 - 名札の裏に感想が書けていることを確認し、認定証と引き換えに回収する。 - この時、ワークシートも回収。

土曜チャレンジ・アップ教室

ネイチャー・テクノロジーとは、生物の優れた機能を取り入れて、開発された技術のことです。例えば、ヨーグルトを全部おいしく食べられるように、容器に「ある技術」が使われています。どんな生物の機能が使われているのでしょうか？講座では、様々な技術の紹介とともに、ヒトが乗っても壊れない紙工作をします。



重いレンガを支える
折り紙の正体は！

9月12日(土)9:30~11:30

KI 小学校(家庭科室)
中部大学の学生が指導します。

- ※ 保護者の送り迎えをお願いします。
- ※ お子様のみでの参加となりますが、保護者も見学はできます。
- ※ お子様に上靴を持たせてください。



生活に潜む
ネイチャーテクノロジー
をさがせ！

3~6年生
(30名程度)

(きりとり)

切り取って、〇月〇日(金)までに職員室の前の応募箱に入れてください。

児童

年 組 名前

保護者

名前

電話番号

※申込み多数の場合は抽選となります。

※抽選の有無に関わらず、結果をお手紙で連絡させていただきます。

申込み

④ ちりめんモンスターをさがせ！（企画指導 味岡）

以下では、9月19日（土）MA小学校で行った企画計画書を記した。

時間	子どもの行動	学生の働きかけと支援	留意点
9:30 5 (5)	1 活動にあたっての説明を聞く。 (1) 起立⇒礼⇒着席 (2) 活動で気を付けることを聞く。	○ 注意点（禁止区域、危険なこと、体調が悪くなったら伝えること	○ 低学年の子どもに合わせた説明をする。
9:35 10 (15)	2 チリメンモンスターについて知る。 (1) チリメンモンスターはカタクチイワシの中に混じっている生物であることを知る。	○ 本時のプリントを配布する。 ○ パワーポイントを使用し説明する。	○ チリメンモンスターはカタクチイワシの稚魚ではないことを気付かせる。
9:45 15 (30)	3 チリメン図からチリメンを発見する練習を3回する。	○ 各班にペンとホワイトボードを配布する。 △ この図の中にチリメンモンスターは何匹いますか。	○ ペンは一人一本与え積極的に活動できるようにする。
10:00 10 (40)	【給水・トイレ休憩】		
10:10 5 (45)	4 実験・観察の説明を聞く。 (1) チリメンレベル1		

	～４を行うことを知る。 (２) 器具の使い方を知る。	○ ピンセット・ルーペの使い方を説明する。	○ ピンセットを人に向けたりしないように特に注意させる。
10:15 35 (80)	5 実験・観察をする。	○ レベル１から課題に取り組ませる。 ○ レベルごとに完成したらラミネートする。 ○ 手元の資料にないチリメンモンスターは調べ、子どもに伝える。	○ ラミネートの際、高温になるので火傷に注意させる。
10:50 10 (90)	6 本時のまとめを聞く。 ○ 地球上の生物はそれぞれの生物の存在で成り立っていることを聞く。	○ パワーポイントを使い説明する。	

土曜チャレンジ・アップ教室

海にすむ魚の子ども（ちりめんモンスター）を観察すると、珍しい生き物の姿が見られます。例えば、カニは2つのハサミと3本ずつの足という姿ではありません。正解は…チリメンジャコの中に隠れています。さあ、みんなでちりめんモンスターをさがしてみましょう！



ちりめんモンスターをさがせ！



発見した
ちりめんモンスターは
家に持って帰れるよ♪

9月19日(土)9:30~11:30

MA 小学校(家庭科室)

中部大学の学生が指導します。

- ※ 保護者の送り迎えをお願いします。
- ※ お子様のみでの参加となりますが、保護者も見学はできます。
- ※ お子様に上靴を持たせてください。

4~6年生
(30名程度)

(きりとり)

切り取って、7月17日(金)までに担任の先生に渡してください。

児童

年 組 名前

保護者

名前

電話番号

※申込み多数の場合は抽選となります。

※抽選の有無に関わらず、結果をお手紙で連絡させていただきます。

申込み

⑤ Paper Cube-算数工作- (企画指導 小池)

以下では、10月3日(土) KA 小学校で行った企画計画書を記した。同内容は11月11日(土)ではMA 小学校、12月5日(土)ではKI 小学校で行った。

10月3日(土)

企画テーマ：サッカーボールはどんな多角形で作られている？！

時間	子どもの行動	学生の行動
9:30	・名札に番号を書く ★起立⇒礼⇒着席 ・【注意点(禁止区域、危険なこと)、大學生の言うことを聞く、体調が悪くなったら伝えること、手をたたいたら前を見て話を聞くこと】の確認をする。	スタートきっかけ⇒小山さん合図 司会：瀬古 PC：松林 ・児童が何番か確認する ★ゆっくり大きな声で、しっかり前を見て話す。 ★台本を見るなら、バインダーを持つ。 ★台本を見なくてもいいぐらいで覚えてくる。 ★全員が企画の流れ、時間配分を把握しておく。 ★演技するのが大切
9:35	*ホワイトボードを取りに行く。 - 身の回りにあるものはどんな形をしているのか考える。 (影から身の回りにあるものを当てる)	司会：成瀬 PC：松林 ・ヒントとしてサッカーボールを見せる
9:45	サッカーボールは何角形からできているか考える。	
10:15	*バットと紙を取りに行く(2人) 1枚ずつ五角形と六角形を書く。 - 自分で書いた五角形と六角形をはさみで切る。 休憩	司会：深見 PC：松林 ・分度器の使い方の説明 ・黒板で五角形と六角形の書き方を実演する。 ・5・6年生は復習となるので、主に4年生を注意する。 ・分度器の使い方が分からないようであれば手助けをする。 ★はさみを使用するので怪我に注意する。 ★切った紙は一定の場所に入れさせる。

10:25	★注意事項の確認 サッカーボールを作るのに五角形と六角形は何枚いるか予想する。 ★解答はホワイトボードに書いて各班で一斉に提示する。 ＊予想の枚数分紙を取りに行く。 予想した枚数で巨大ボールを作成する。 (1班2つぐらい) ・予想枚数で足りなければ矢野から紙をもらう。 ＊作成方法の紙を取りに行く。 自宅でもサッカーボールが作れる紙をもらう。 ★時間が余れば持ち帰りの紙に色塗り	
11:10	今回のまとめを聞く。 ・名札の裏に感想を書く。 次回のセミナーのお知らせを聞く。	司会：深見、矢野 PC：松林 ・作るポイント（注意点）を言う。 ・どの班が一番に作れたか、サッカーボールに必要な五角形と六角形の枚数が正しかった(近かった)班はどこか発表。 ・名札の裏に感想を書くことを促す。
11:20	★起立⇒礼⇒着席 講座終了	司会：瀬古 PC：松林 ・どの班が一番に作れたか、サッカーボールに必要な五角形と六角形の枚数が正しかった(近かった)班はどこか発表。 ・巨大ボールが欲しいと言う児童がいたら、瀬古とじゃんけんして勝った児童にあげる。 ・次回の説明は池林がお知らせする。 ・各班で名札の回収し、認定書を配布。 ・児童が荷物をまとめられたら、廊下に集合させ、全員そろったら昇降口へ誘導する。

＊自分の班が全員帰ったら家庭科室に戻って片付け

土曜チャレンジ・アップ教室

算数は「計算する、グラフを書く」だけではない！私たちの周りには、様々な図形が組み合わさった図形の集合体ばかりです。コンパス、分度器を使い、みんなの知っているある物を作ってみよう！



頭を柔らかくして、
算数を楽しみましょう♪
何が作れるかな？

Paper Cube
ペーパーキューブ
算数工作

10月3日(土)9:30~11:30

KA 小学校(家庭科室)
中部大学の学生が指導します。

- ※ 保護者の送り迎えをお願いします。
- ※ お子様のみでの参加となりますが、保護者も見学はできます。
- ※ お子様にお靴を持たせてください。

4~6年生
(30名程度)

(きりとり)

切り取って、〇月〇日(金)までに職員室の前の応募箱に入れてください。

申

込

み

児童

年 組 名前

保護者

名前

電話番号

※申込み多数の場合は抽選となります。

※抽選の有無に関わらず、結果をお手紙で連絡させていただきます。

⑥ 和風照明を作ろう！（企画指導 長尾）

以下では、10月10日（土）KI 小学校で行った企画計画書を記した。同内容は10月31日（土）ではKA 小学校、12月12日（土）ではMA 小学校で行った。

10月10日（土）

企画テーマ：和紙照明を作ろう！-インテリア工房-

分	学習活動	手だて・注意事項	学生の活動
		・川口さんからの開始の合図	
5分	1. あいさつと注意事項 ・注意事項確認 ・本時でやることの確認 ・使う材料の確認	起立→礼→着席 ・禁止区域、危険行為、体調が悪くなったら伝えることなど。 ・学生が製作したものを見せる。 ・照明に対する説明。（パワーポイントを活用） ・本時で作る作品の紹介。（見本を使用） ・和紙がどんなものかを簡単に説明。 ・材料確認（ライト、のり、和紙、割りばし、短い割りばし、輪ゴム、新聞、学習プリント、筆、紙コップ）	担当説明【下村】 PC【窪田】 （以下の活動全て同じ） ・前で話す学生以外は各班にそれぞれついておく。
5分	2. 手順の説明① ・割りばしと木の枝を使って照明の骨組みを作る。	・製作する前に簡単に骨組みまでの手順を説明し、三角錐型の骨組みを製作説明しながら製作していく。 ・各班に骨組みの三角錐を見本で配る。	・各班に1人は学生がつき、わからないことなどはそれぞれで対応する。
15分	3. 三角錐をもとに好きな形に骨組みを組む。	・学習プリントに製作前か後にどんなテーマにしたのかを記入する。 ・こういった物を製作していけばいいのかわかりやすいようにテーマを言う。 ・骨組みの状態の三角錐から発展させた見本を見せイメージをつかめるようにする。 ・製作に木の枝を使うことができるということを説明する。 ・木の枝の使用は一人三本に制限する。 ・製作上の留意点 枠の間隔を大きくしすぎない。 照明を入れる間隔をあけておくなど。	・各班に1人は学生がつき、わからないことなどはそれぞれで対応する。

30分	4. 和紙の貼り方の説明。 製作した骨組みに和紙を貼っていく。	・各班には、一人三枚の和紙を使えるように準備しておく。 ・骨組みの一つを使い、実際に貼る場所を見せながら説明する。 ・説明し終わったところで机に新聞をひき、のりを水で薄める。(割合は水：のり＝1：1ぐらい) ・薄めたのりは使い終わったら、一つにまとめ、水道側に置いておく。 ・筆は水を入れた紙コップを別に用意し、それにまとめて水道側に置いておく。 ・製作上の留意点 和紙は細かくちぎる	・各班に1人は学生がつき、わからないことなどはそれぞれで対応する。
10分	5. 休憩	・休憩のときに立ち入り禁止の場所などの注意事項を確認しておく。 ・児童がはしゃぎすぎないようにする。	折り紙、画用紙、花紙を教室の後ろに置く。
30分	6. 手順の説明② ・継続して和紙を貼る。 ・完成した子は照明に折り紙や画用紙、花紙を貼っていく。	・前の作業ができていない場合は継続して製作する。 ・家庭科室の後ろに画用紙や折り紙、花紙を用意し貼り付けることができることを伝える。 ・照明に貼る絵柄は事前に切りぬいておく。	・各班に1人は学生がつき、わからないことなどはそれぞれで対応する。
15分	7. 鑑賞 ・各班でどんな作品ができたのか鑑賞する。(時間がある場合は違う班の作品を鑑賞する)	・各班に2つ作品の入る段ボールを用意する→中をのぞけるようにし鑑賞できるようにする。 ・鑑賞する観点などの例をだす。	・児童と共に作品を見て回り、声掛けをする。
10分	8. まとめ ・感想の記入とあいさつ ・次回予告	・各班の名札の裏に感想を記入させる。 ・名札の裏に感想を書いた人から学生と認定証と交換する。 ・次回の企画の宣伝 ・起立→礼→解散	
	9. 見送り・片付け	・各班の担当学生は昇降口まで児童を見送る。 ・忘れ物がないか注意する。 ・班の担当のない学生は片付け。	

土曜チャレンジ・アップ教室

夜がだんだんなくなってくる秋の季節。紙を使った照明器具は、ほんのり暖かな雰囲気を作り出してくれます。身の回りにある材料を使って、目で見て暖かなオリジナル和風照明を作ってみましょう！



できあがった作品は
家に持って帰れるよ♪

和風照明を作ろう！

4～6年生
(30名程度)

10月10日(土)9:30～11:30

KI 小学校(家庭科室)

中部大学の学生が指導します。

- ※ 保護者の送り迎えをお願いします。
- ※ お子様のみでの参加となりますが、保護者も見学はできます。
- ※ お子様にお靴を持たせてください。

(きりとり)

切り取って、〇月〇日(金)までに職員室の前の応募箱に入れてください。

申

込

み

児童

年 組 名前

保護者

名前

電話番号

※申込み多数の場合は抽選となります。

※抽選の有無に関わらず、結果をお手紙で連絡させていただきます。

⑦ 道風をめざせ！ - 筆を使って、詩を書こう - （企画指導 高木）

以下では、10月17日（土）MA 小学校で行った企画計画書を記した。同内容は11月7日（土）ではKI 小学校で行った。

10月17日（土）

企画テーマ：君も小野道風だ！

時間	子どもの行動	学生の行動
9:30	導入 ・ <u>起立⇒礼⇒着席</u> ・ 注意点（禁止区域、危険なこと）、大学生のいうことを聞くこと、体調が悪くなったら伝えることの確認 ・ 道風と春日井についての説明を聞く ・ 使うものの確認 （書道用具一式(児童持参)、筆ペン、詩の草案用紙、半紙、色和紙、麻ひも、スティックのり、ホッチキス、乾かす用の新聞紙）	スタートきっかけ＝市の方の合図 司会（鈴木） ・ 各班の補助は司会が話したことを班の子に反復して伝える。
9:40	詩の下書きをする。 ・ 詩そのものについて説明する。 ・ 制限（折句の要素）の説明を聞き、参考作品を見る。 ・ 制限に則り、詩を考える ・ 国語辞典の使い方の説明をする。	司会（和田） ・ 補助は事前に制限をしっかりと理解しておき、児童に指摘する。 ・ 案が浮かばない子にはこちらで用意した言葉か子どもの名前を提案する。 ・ 各班に1冊国語辞典をおく。
10:15	トイレ休憩と水分補給	・ お茶当番はなし。
10:25	書道道具の準備 ・ 机の上の新聞紙が敷いてあるところに書道道具を準備する。	司会（宇佐美） ・ 講座開始前に新聞を机に敷いておき、そこに道具を準備させる
10:30	清書 ・ 半紙（一人10枚）に清書。 ・ 清書できたら一番良いものを色和	・ 書き方（縦・横・斜め）などの指定はせず、名前と題材は記入させる。 ・ 半紙は10枚で、予備はないことを念押し。

10:55	紙に貼りつける。 ・早くできた子は片づけ。	・早くできた子は片づけをさせるが、 その際、周りに十分注意させる。
11:05	色和紙に作品を貼る ・色和紙に紐を付ける ・紐を付けた色和紙に作品を貼る。	・10:55 になったら、半紙が余っていても、辞めさせて作業に移させる。
11:15	片づけ開始 ・筆と硯を洗う。 ・早くできた子は感想記入。	・バケツの中で必ず洗わせる。 ・机の新聞紙は児童解散後に撤収。
11:25	まとめ、次回予告 ・名札の裏に感想記入し提出・作品いに拇印を押す→認定証と交換 ・次回は「算数」であることを知る。	司会（竹内） ・名札をもらうのと作品に拇印を押したら認定証と交換。 次回予告（松岡）
12:00	解散 <u>起立⇒礼⇒着席</u>	・見送り（各班担当者） ・片づけ（見送り以外の人） 完全撤収

制限（詩を作る際のルール）について

- ・ 5 文字の言葉を頭文字にして詩を作る。
- ・ 頭文字にするので「ん」「ー」が言葉を入れるのは NG
- ・ 小さい文字も大きい文字とし、一文字とする（例：や→や）

用意した言葉

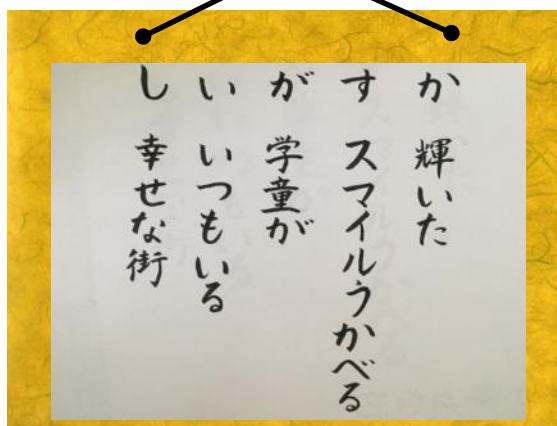
くりひろい、もみじがり、あかねぐも、むしのこえ、さつまいも、
おつきさま、ふゆやすみ、クリスマス、ゆきだるま、かすがいし

土曜チャレンジ・アップ教室

春日井市は日本の書道の基礎を築いた小野道風の出身地という伝説があり、「書の街」として有名です。
今回は書写ではないので、字を書くのが苦手な子も大歓迎です！ 筆で書くことを楽しみましょう！



⑧



和紙に貼って掛け軸風に
にした作品は、
家に持って帰れるよ♪

10月17日(土)9:30~11:30

MA 小学校(家庭科室)

中部大学の学生が指導します。

- ※ 保護者の送り迎えをお願いします。
- ※ お子様のみでの参加となりますが、保護者も見学はできます。
- ※ お子様にお靴を持たせてください。

道風をめざせ！
筆を使って、
詩を書こう！

4~6年生
(30名程度)

(きりとり)

切り取って、〇月〇日(金)までに職員室の前の応募箱に入れてください。

申

込

み

児童

年 組 名前

保護者

名前

電話番号

※申込み多数の場合は抽選となります。

※抽選の有無に関わらず、結果をお手紙で連絡させていただきます。

⑧走れ！リニアモーターカー（企画指導 味岡）

以下では、1月16日（土）KI 小学校で行った企画計画書を記した。同内容は2月20日（土）ではMA 小学校で行った。

1月16日（土）

企画テーマ：磁石と電流の関係を学ぶ

分	学習活動	手だて・手順	学生の行動
10	1 あいさつと導入 ・あいさつと決まりについて ・研究員紹介 ・リニアモーターカーって知ってる??	・元気にあいさつ。 ・学生の紹介は各班に配置した研究員が一人ずつ簡単な自己紹介 ・冬休みの旅行を利用した導入。旅行で用いた交通手段の話を織り交ぜながらもリニアモーターカー（以下リニア）につなげていく ・リニアに関する説話（近未来、もうすぐ）。	（稲垣）・司会 （下村）・スライド自己紹介
50	2 作って調べよう！（工作） ・道具の説明 ・実際に工作を行いレールを作る ・完成次第自由に遊ばせてみる	・使う道具について簡単な解説を行う ・実際に磁石を並べてレールを作る。 ・磁石の向きなど少しややこしい部分は各班で指導。 ・レールが完成したらリニア模型も作る。 ・遊ばせてる時に事故注意	（佐々木）に交代 各班、児童のサポート
10	～休憩～		
10	3 質疑確認 ・遊ばせてみて疑問に思ったことを自由に挙げさせる		
30	応用実験（実験テーマ 超高速リニアをつくろう） ・先の質疑確認で出たものを実験していく。 ・電池の数を増やす。磁石を増やす。など	（考えられる質問） ・どれだけ大きくしても動くのか？ ・電池を増やせばもっと速く走るのでは？ ・電池を逆にしたら？ ・レールをもっと長いものにしたい ・磁石を増やしたい	

		・各班ごとに実験を行う。各班の担当はしっかりと監督を行い、実験を進めていく。(20分ほどを予定)	
10	画用紙で自分のオリジナルデザインのリニアを作る。。		
	まとめ ・今日の実験のまとめ ・認定証	リニアモーターカーがなぜ磁石と電流の力で動くのかをまとめる。 応用実験結果から考察を行う。(ローレンツ力、フレミング左手の法則)	
	解散		

- ・リニア中央新幹線の開業見通しが立ち始めますます盛り上がるリニアモーターカー。
おそらく今回の児童たちがすっかり大人になるころには開業しているだろう。
- ・そのリニアモーターカーが磁石を用いて動くことはなんとなく理解しているだろうが、そこに電流が関係していることを学ばせたい。
- ・中学理科でも躓きやすいポイントであるローレンツ力を小学生のうちに実験を通じて触れさせる。

土曜チャレンジ・アップ教室

電気と磁石の力によって走る乗り物。それが新しい時代の乗り物、リニアモーターカーだ！
そんなリニアモーターカーの仕組みを知って私たちと一緒に楽しく走らせてみましょう！



作った作品は家に持ち帰れるよ。
頑張って作ろう★

1月16日(土)9:30~11:30

KI 小学校(家庭科室)

中部大学の学生が指導します。

- ※ 保護者の送り迎えをお願いします。
- ※ お子様のみでの参加となりますが、保護者も見学はできます。
- ※ お子様にお靴を持たせてください。

走れ！
リニアモーターカー

4~6年生
(20名程度)

(きりとり)

切り取って、〇月〇日(金)までに職員室の前の応募箱に入れてください。

申

込

み

児童

年 組 名前

保護者

名前

電話番号

※申込み多数の場合は抽選となります。

※抽選の有無に関わらず、結果をお手紙で連絡させていただきます。

⑨オリジナル人工いくらを作り出そう！（企画指導 小笠原）

以下では、1月23日（土）MA 小学校で行った企画計画書を記した。同内容は2月13日（土）ではKI 小学校で行った。

1月23日（土）

企画テーマ：オリジナル人工いくらを作り出そう！

時間	子供の行動	学生の行動	備品
9：30	・導入を聞く	すべて平野 スライド（ ） ・起立→礼→着席 ・初めのあいさつ ・プリントを配布しておく ・担当学生は1人1テーブルで待機 ・補助の学生は端で待機	・配布用プリント、パソコン、プロジェクター、スクリーン.新聞紙
9：35	・材料の確認 （前を見ながら声を出して材料の確認を行う）	・グループごとに前を見ながら確認する。（ガラス瓶、アルギン酸ナトリウム、塩化カルシウム、割り箸、紙コップ、注射器、バット、ガーゼ、絵の具、雑巾、ペン 丸型水槽 or バケツ） ・不足品などの確認 ・児童にも確認させる	（ガラス瓶、アルギン酸ナトリウム、塩化カルシウム、割り箸、紙コップ、注射器、バット、ガーゼ、絵の具、雑巾、ペン 丸型水槽 or バケツ）
9：40	イクラ、人工イクラについての説明を聞く。		パワーポイント
9：50	今日やることの説明を聞く。		
10：00	プリントへの記入	実験の作業 プリントにデザインを書く。	色鉛筆、プリント
10：10	・方法の説明を聞く（実際に溶液を混ぜる）	*説明のため机間指導 溶液が溶けているかを確認する。	アルギン酸ナトリウム、塩化カルシウム、コップ、割り箸
10：20	・休憩	・休憩の注意事項を連絡	お茶、実験の器具の再確認

土曜チャレンジ・アップ教室

すしや
お寿司屋さんなどで食べられる「イクラ」。どんな魚の卵かみんな知っているかな？なんと！今回はそんなイクラきれいを自分たちで作ります！綺麗に色付けし、置物として家にかざ飾ってみましょう！！



できあがった作品は
家に持って帰れるよ☆

1月23日(土)9:30~11:30

MA 小学校(家庭科室)

中部大学の学生が指導します。

- ※ 保護者の送り迎えをお願いします。
- ※ お子様のみでの参加となりますが、保護者も見学はできます。
- ※ お子様にお靴を持たせてください。

オリジナルイクラを
作り出そう！

4~6年生
(30名程度)

(きりとり)

切り取って、〇月〇日(金)までに職員室の前の応募箱に入れてください。

申

込

み

児童

年 組 名前

保護者

名前

電話番号

※申込み多数の場合は抽選となります。

※抽選の有無に関わらず、結果をお手紙で連絡させていただきます。

⑩マジックキャンドルを作ってみよう！（企画指導 橋本）

以下では、2月6日（土）KA 小学校で行った企画計画書を記した。同内容は3月12日（土）ではKI 小学校、3月19日（土）ではMA 小学校で行った。

2月6日（土）

企画テーマ：マジックキャンドルを作ってみよう

時間	子どもの動き	学生の行動
9：30	導入 ・【注意点（禁止区域、危険なこと） 大学生の言うことを聞くこと、体調が悪くなったらすぐ周りの大学生に伝えること、薬品を使っているので暴れないこと】の確認	スタートきっかけ→川端さんの合図 司会：山崎
9：33	★起立⇒礼⇒着席	挨拶：山崎
9：35	前に集めて（教壇に触らない程度の場所に児童を集める。） 燃える液体【メタノール】を見せる 蒸発皿（白）	演示実験・説明：永江
9：45	そのまま ろうそくの作り方についての説明 上皿天秤の説明	説明：成瀬 助手（演示動作）：鈴木 口頭で炎は何色になるか予想させる
10：00	作成 ・上皿天秤でステアリン酸1gを量る。 ・メタノール20mlにステアリン酸、発色剤 小さじ2杯1g入れ、湯せんしながら割り箸で混ぜる。 ・ステアリン酸が溶けたら発色剤を少量入れ、湯せんしながら割り箸で混ぜる。 ・作った水溶液に紐を浸し、ピンセットを使いバットに取り出	プリント配布 ・班内で上皿天秤を使う場所を固定する。 ・ステアリン酸1gを量れた児童にメタノール20mlを渡す。 ・班内全員の児童がステアリン酸を量れたら、湯せん用のお湯を取りに行く。 ・ステアリン酸が溶けた児童のビーカーに塩化ストロンチウムかホウ酸を入れる。 ・自分の紐だと分かるようにバットに取り出させる。

	す。同様に、紐を 5 本作る。 ・ワークシートの問題を解く。	・早くできた児童からワークシートの記入を促す。
10:50	トイレ休憩 一階のトイレを使うこと 薬品を使っているので暴れないことを伝える	深見
11:00	・これを蒸発皿【白】に入れ火をつけて観賞する	塚原
11:10	・指令書の答え合わせ ・ろうそくを使うときの注意事項伝達（長期放置すると、普通の炎になってしまうため、できるだけ早く使う）	中嶋
11:20	・土曜チャレンジアップまとめ ・児童に感想文を書いてもらう。 ★起立⇒礼⇒着席 （感想と交換で持ち帰る用の袋を渡す。）	挨拶：松林 ・児童が荷物をまとめたら、グループごとに集合させ、全員そろったら、グループについていた学生が昇降口へ誘導する
11:30		片づけ 指示：山崎
12:00		完全撤収

土曜チャレンジ・アップ教室

ろうそくの炎の色は何色かな？

炎の色はなんと、金属塩きんぞくえんの炎色反応を使うことで色を変えることができます。その反応を利用していろんな色のろうそくを作ってみよう！！



作った作品は家に持ち帰れるよ。
頑張って作ろう★

2月 6日(土)9:30~11:30

KA 小学校(家庭科室)

中部大学の学生が指導します。

- ※ 保護者の送り迎えをお願いします。
- ※ お子様のみでの参加となりますが、保護者も見学はできます。
- ※ お子様にお上靴を持たせてください。

マジックキャンドルを
作ってみよう！

4~6年生
(30名程度)

(きりとり)

切り取って、〇月〇日(金)までに職員室の前の応募箱に入れてください。

申

込

み

児童

年 組 名前

保護者

名前

電話番号

※申込み多数の場合は抽選となります。

※抽選の有無に関わらず、結果をお手紙で連絡させていただきます。

2. 活動報告①春日井市立 KI 小学校

(1) 活動記録

①学生紹介

2 年生 窪田真子 小森一輝 佐々木翔大 下村優介
1 年生 浅井来貴 稲垣雄太 鈴木彩乃 鈴木情剛 宮部成矢 吉岡隼大

②企画への参加者数と申込者

	6 月	7 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
	草木染	葉脈標本	ネイチャーテクノロジー	和風照明	習字	算数	リニアモーター	人工イクラ	ろうそく
定員	30	30	30	30	30	30	20	30	30
申込人数	30	38	32	47	8	9	25	26	33
参加人数	30	28	18	29	6	7	20	23	30
欠席者	0	1	0	1	4	2	0	3	0
抽選漏れ	0	8	2	17	0	0	5	0	3
対象学年	小 4～6	小 4～6	小 3～6	小 4～6	小 4～6	小 4～6	小 4～6	小 4～6	小 4～6

(2) 学生活動報告

①6 月 6 日（土）企画

A. 企画目標

- a. 学生の目標：全体を見て、自分で行動することができるようにする
- b. 子どもの目標：自分のオリジナル作品を作ろう

B. 学生活動報告

a. 企画で工夫した点・良かった点

- ・ 前日までに染色液をタンク 3 本に用意しておいた。
- ・ 染物工房という設定で講座を行った。
- ・ 染物工房の看板を作った。

b. 反省点とその改善方法

- ・ 自分たちで器具を用意できなかったの、どこに何があるかわからなかった。→次回は自分たちで用意する。
- ・ 小学生の座席を決定することに時間がかかり、開始時間が遅くなった。→くじ引き、指定席など検討する。
- ・ 講座後、黄色素が洗浄しても落ちない。→漂白剤の用意が必要。
- ・ ぞうきんが 3 枚しかなく、足りなかった→次回枚数を増やす。
- ・ 児童が話をやめる前に説明をしてしまった。→改善する。

C. 参加児童感想文

学年	感想
4	そめるのは、はじめてだから、すごく楽しかったです。でもワゴムを、きつくしめることができなかったのも、もようがあまりつかなくて、ざんねんでした。
4	そめるのは、はじめてですごく楽しかった。もう少しだけわごむをきつくむすべたらよかった。
4	たのしかったです。ランクガイ先生がおもしろかったです。
4	そめたのが、はじめてで、きんちょうしたけど、もようもきれいで楽しかったです。
4	色はうすかったけどやりかたが分かって楽しかったです。
4	ゴムやビー玉を使って色をそめたりするのが楽しかったです。
4	出来あがった時の色がいがいな色だったです。
4	いろいろな物を作ってこんなことができることをしました。とても楽しかったです。
4	ハンカチをそめるのはとても楽しかったです。さくらの葉で作ってさいしょは緑だとおもったけど、きいろだったのでとてもびっくりしました。こんなにかんたんなので、家でも作ってみたいです。
4	たのしかったです。そめものがうまくできた。ありがとうございました。
4	さいしょは色がわごむの色になると思ったけどきいろになったからちょっとざんねん。
4	おもしろくてすごくたのしかったです。
5	あまり色は出なかったけど初めてやったから楽しかった。
5	さくらのはが黄になるとは思わなかった。けっこうたのしかった。OK
5	楽しかった。
6	もっときつくしければよかったあとと思いました。すごい楽しかったです。黄色になるとは思いませんでした。
6	楽しくできたのでよかったです。予想してたよりちがう色になったので、びっくりしました。
6	たのしかったです。
6	桜の葉が黄色に変わるのが分った。昔はむらさき色を見から取っていたのも分った。
6	おもった色とはちがって黄色になりました。きれいにあととはつかないけど、すごくおもしろかったです。
6	楽しかった。思ったより感じがちがった。
6	黄色にそまったことがいがいだった。やれたら家などでいろいろな色にそめてみたいと思った。

6	色が黄色になっておもしろかったです。
6	おもしろかったです。とくにランク外先生がへんなことをいていたのでおもしろかったです。
6	桜の葉が黄色に染まるのはびっくりしました。デザインを考えるのが楽しかったです。
6	おもしろかった 楽しかった ランク外先生がカレーといった
6	さくらのはっぱが黄色に変わっていて、びっくりしました。予想通りにできてうれしかったです。ありがとうございました！！
6	そめるのにミョウバンをつかうなんて知りませんでした。家でもやってみたいです。
6	楽しかった なんかミッキーがびみょーにできてよかった ちなみにわたしのパパは中部大のやきゅう部のかんとくです！
6	もっとキツクしなければよかったなーと思いました。

②7月4日（土）企画

A. 企画目標

- a. 学生の目標：オリジナル企画へ向けて積極的に児童と向かい合う態度を身に着けるとともに、先生とした毅然とした態度を意識する。
- b. 児童の目標：葉肉が溶けるメカニズムを考えながら、自分好みのオリジナルしおりとフォトスタンドを作成する

B. 学生活動報告

a. 企画で工夫した点・良かった点

- ・制作で児童が楽しそうに取り組んでいた。
- ・説明している学生の声がはっきりとしていて聴きやすかった。
- ・各班に誰か一人は学生がついていたこと。
- ・危険な薬品と取り扱ったけど、けがをさせることなく終えることができた。
- ・前日に葉を事前に剥けるようにしていたので、スムーズに進行することができた。

b. 反省点とその改善方法

- ・受付での見学する児童の対応として、名前と学年を聞き、名簿に書いておくようにする。
- ・葉脈についての説明は内容が難しく、真剣に聞いている児童よりも分からないといった反応をする児童の方が多かったので、説明する際に注意する。
- ・説明とクイズの時間が予定よりも短くなってしまい、葉を水酸化ナトリウムで出す時間が短くなっていたので、あらかじめ台本を作っておくことやある程度の対応などを考えておく。
- ・制作でかなりの児童が葉の色の塗り方などにこだわるので、時間の配分には注意す

ること。

- ・色を塗る際に机に色がつくことを防ぐために、新聞紙を用意しておくこと。
- ・各班についている学生が説明している間などは児童を静かにさせる。

C. 参加児童感想文

学年	感想
4	たのしかった たのしかった たのしかった たのしかった たのしかった
4	とてもたのしかったです！またやりたいです！
4	たのしかった
4	すごくたのしかったです。またきたいです。ぜったいまたきます。
4	今回はフォトフレームが作れてたのしかったです。またやってみたいです。
4	今日は楽しかったです。しおりなどを葉みゃくで作るのは始めてだったです。
4	たのしかった たのしかった
4	たのしかた。おもしろかった。
4	きれいでたのしかった。
4	葉にも色をつけれて楽しかったです。しおりとフォトスタンドが作れてよかったです。
4	今日のはねにいろをぬったりして、フォトフレームとしおりを作ってとても楽しかったよ。おもしろかったよ。
4	いろんな色で葉っぱをぬってとっても楽しかったです。むずかしい所もあったけどとってもべんきょうになりました。
4	たのしかった
4	今日の教室で、いろんなことを知ることができて楽しかったです。家でもまた自分では見ができるといいなと思います。ありがとうございました。
5	初めてやったから楽しかったし色つけがドキドキした 今日は楽しい日だ
5	やるのは、2回目でもたのしかった。また次の9/19のやつもきたいです。6ねんせいになってもつづいていたらきたいとおもっています。きょうつくったやつをたいせつにしたいと思います。
5	葉の葉肉や葉脈のことを知ったり、しおりやフォトスタンドを学びながら楽しく作ったりして、とても楽しかったです。
5	次回の9/19日は全体に行きたいと思った。
6	たのしかった。はぶらしでごしごしするのがたのしかった。またやりたい！
6	楽しかった
6	たのしかった！またやりたい！
6	思った以上にうまくできたのでうれしかったです。
6	ようみゃくに色がぬれるのがおどろいた。楽しかった。

6	楽しかった
6	今日は、葉っぱをつかって、しおりなどをつくりました。今週中に1番たのしかったです。
6	しおりを作ったのは初めてだったので、とても良い体験でした。おもしろかったです。
6	きれいに色がぬれてよかった
6	とてもたのしかったです！！またやりたい 大切にします。
6	しおりを初めてつくった。楽しかった。

③9月12日（土）企画

A. 企画目標

- a. 児童の目標 ネイチャーテクノロジーによって、ヒトの生活が豊かになっていることを知る。

B. 参加児童感想文

学年	感想
3	はちのすつくるのがたのしかったー！おうちでつくってみるね！！
3	なし つまらない まったくつくらなかった
3	ハニカムこうぞうを作るのがたのしかった～ 家ででっかいの作って見るねー♪ ♪
3	おもしろかった
3	ハニカムのことをはじめてしりました。
3	ハチの巣がおもしろかった。
3	さいごまで、くわしく、生めいしてくれてたのしかったです。カニカムおもろかった。またきたい
4	王かん構造使ってね
4	楽しかった。PSP ビータほしい
4	わたしは、理科の実験がすきなのですごかったのしかったです。
4	また行きたいです。
4	ヌルフフフ！！（←楽しかった。）青のエクソシスト←だいすきなアニメ
4	楽しかったです。ハニカムこうぞうのことを（そう言うのを、）知らなかったです。お友だちが少ないのかと思いきや、たくさんのお友だちがいたので、やりやすかったです。ハスの葉やカタツムリがいろんな物に使われているのを初めて知りました。とっても楽しかったです。10月のも、申し込みたいです。
4	あまり分からなかった。

4	ふつうのかみなのに、レンガや水のはいったペットボトルがのってびっくりしました。
4	いろいろあったのしかった。
4	おもしろかった ウェーイ ヌルフフフ ビータホシイ
4	しんかんせんに、ハニカム構造がつかわれていることをはじめてしってとてもたのしかったです。
5	今日、ネイチャーテクノロジーをさがしておみやげももらい、いろんなこともわかったので楽しかったです
5	今日はさんかをして、よかったです。10月10日の土曜チャレンジアップにきたいと思います。9/11日にチャレンジアップのかみをもらったのもうしこみをしようと思います。とてもたのしかったです。
6	今日はネイチャーテクノロジーのことがわかりました。次がたのしみです。
6	たのしかった カタツムリのこうらはだいどころにつかわれていることがわかった。
6	ネイチャーテクノロジーで人や物を乗せることに初めて知りました。
6	? たのしかった!
6	楽しかったです。

④10月10日（土）企画

A. 企画目標

- a. 学生の目標：全体に目配りをし、自分から気づいて行動する。児童に対して積極的に接するようにする。
- b. 児童の目標：材料と照明の良さを見つけてオリジナルの作品を作る。

B. 学生活動報告

a. 良かった点

- ・骨組みや和紙を貼るのに困っている児童に対して適切にフォローや声掛けなどを行うことができた。
- ・鑑賞に段ボールを使うことによって、完成した喜びや実感を持たせることができた。
- ・事前にのりを水に溶いたものを用意しておくことでスムーズに制作に入ることができた。
- ・話を聞くときに、しっかりと静かにさせてから話し始めることができた。
- ・見本を見せてテーマについて説明したことで、制作する形に困る児童がいなかった。

b. 反省点・改善点

- ・制作に関する材料の予備が少なかった。→事前準備の時点で余裕を持って行動する。チェックリストを事前に作成し、確認する。
- ・指導教員との打ち合わせを綿密にしておく。
- ・説明する時間が短かったことや言い回しがわかりにくかったことで、説明を理解している

児童と理解していない児童に制作の時間に差ができてしまった。

- ・小学校側の配慮だったからといって、15分も時間を延長してしまった。

C. 参加児童感想文

学年	感想
4	ふだんはたいげんできないことをできてよかったです。
4	たのしかったです。また、おうぼしたいです。
4	たのしかったです。
4	夜につけるのが楽しみです。ちぎってつけるのがびっくりした。
4	今日は（も）当せんして、良かったと思いました。のりをお水でとかしたのをぬったり、カワイイきりとりのおりがみをはったり、とても良かったです。けっこうしょう（？）さんに手伝ってもらったけど、カナリの力作ができました。ありがとうございます☆
4	水のりがべたべたでたいへんだった。
4	作るのだとたのしい。前はじっけんばっかだったけどつくるのだったからおうぼした。ちょーたのしかった。
4	よるにつけるのがたのしみになった。
4	わちとたのしかった
4	楽しかった。
4	今日はものすごくたのしかったです。またやります。
4	楽しかった
4	きょうは、でんきであそべるていいと思います すこしむずかしかったけどたのしかったです
4	作り終わって光をとうしたらきれいだった。
4	作品はできなかったけど楽しかったです。
4	とても楽しかった！次回もまたきたい
5	ランプは学校でもつくったりしてるけど楽しかった。
5	次のやつは、詩をつくるのはむずかしいと思うけどこれたらきたいと思います。たのしかったです。
6	工作楽しかったよ
6	きょうは和紙でおもしろいものを作りました 次もがんばりたいです。
6	初めてきましたが、すごく楽しかったです。もっと時間があればよかったな…またきたいです。
6	たのしかった
6	きれいにつまくできてうれしかったです。
6	たのしかった

6	1人1人ちがう作品がつくれてたのしかった。また次のもいきたいと思った。 夜みるのがたのしみっ
6	あんどんとは少しちがった和紙証明をつくれておもしろかったです。
6	少し難かしかったけど家でもやれそうなので、やってみたいです。おもしろくて楽しかったです。
6	たのしかった
6	いがいとうまく作れて楽しかったです。またやりたいです。今日、つくったやつを使ってみようと思います。
6	作るのはむずかしかったけど、とてもやりがいがあり楽しかったです。次の教室にも来たいと思います。とても楽しかったです。

⑤11月7日（土）企画

A. 企画目標

a. 学生の目標

- ・児童への指導を通して、教員らしい態度を身に着ける
- ・国語・書道の指導を体験し、将来指導する際の指導方法を考える。

b. 子どもの目標

- ・詩を作ることを通して、発想力や語彙を豊かにする。
- ・書道を通して道風のことを知り、春日井の新しい魅力を感じる。

B. 学生活動報告

a. 企画前日まで

- ・企画当日に参加する学生のリハ、打ち合わせの参加率が高かった。
- ・前班の反省を生かし、よりよくするためにみんなで考えられた。
- ・個人的なことだが、リーダーとして荷物搬入を忘れていて他の人に任せる結果となってしまった。あとで積むべき荷物を共有してなかったために自分で持つて行くことになってしまった。

b. 企画当日（企画）

b-1. 詩の作成

- ・ワークシートの使い方、書き方の例を含んだ十分な説明を入れたことによってスムーズに詩を作り始めることができていた。
- ・頭文字となる文字を右から左に横書きすることに違和感を覚えていたがわかりやすさを重視した説明をすると納得した様子だった。
- ・学生の声掛けのおかげで一人一つは詩を考えられた。早い子で三つ、遅い子で一つ（ただし、遅いと言っても児童自身で方向性が決まっており、それに適するものを見つけるのに時間がかかっていた）

- ・ウェビングを使って考えさせている学生がいてよかった。
- ・辞書は詩の本文になる単語を探すのに使っていた。
- ・指定なしで作る→頭文字に関わる詩を作る→5. 7. 5. 7. 7で考えるというように順を追って考えさせると、初めは自由に考えられるし、徐々にレベルアップを狙えるのでよかったと思う。
- ・早く詩ができた一部の児童が学生と話したり遊んだりしてしまっていた。

b-2.清書・作品

- ・清書をするときに使う筆の指定はしなかった。→各々で太筆と細筆を使い分けていた。
- ・名前のはんこが思ったよりも地味だった。
- ・名前のはんこを忘れていて、急遽名前を作ったため時間がかかってしまった。
- ・作品の和紙の軸になる割り箸を組み合わせたが、和紙の向きを間違えて短く作ってしまった。アンバランスな作品になってしまった。

b-3.片づけ

- ・満足のいく作品ができた児童から片づけを始めるとしたら、時間になっても遅れて片づけを始めた児童が片づけをやめず、早く終わった児童を待たせる状況が生まれてしまった。

c.その他反省・感想

打ち合わせ、企画当日を総合的に見て、よくできた方ではないかと思う。児童の参加人数が少なかったため、集中的な支援が出来たし、学生が計画通りの動きをしてくれた。そのために全体の進行が非常にスムーズにできた印象がある。児童が学生をあだ名で呼んでいたことについては、周りを害するような過度のものは注意した。多少なことは児童が楽しく活動することを妨げる原因になると思い、目をつぶることにしたが、それがよかったかどうかは判断できない。

C. 参加児童感想文

学年	感想
4	初めて横書きで書いて楽しかった
4	おもしろかったです。
4	五文字考えることがたいへんだったけれど楽しかった。
5	たのしかった。伊野おとジャニーズおもしろかった。
5	また次のやつも、ともだちとくる。すこしだけおもしろかった。いろいろな人になにしている人がいっぱいいた。おもしろかった。
6	今日はとっても楽しかったです。次も当せんしたいです。

⑥12月5日（土）企画

A. 企画目標

a. 学生の目標

今までの企画を頭に入れ、児童への接し方、指導方法などをレベルアップさせ、堂々と

し児童の目を見て話せる。

b. 児童の目標：

算数を身近に感じ、楽しみながら算数を学ぶ。

助け合いながらいろいろな人と協力する。

B. 学生活動報告

a. 良かった点

・分度器の使い方を理解し、丁寧に制作してくれた。

・夢中になってサッカーボールを作ってくれた。

b. 反省点

・休憩時、立入禁止区域に入る子がいたため、担当している学生が注意するのと同時に全体的場で言うておく。

・制作時間が短く、参加児童の半数ほどが完成できなかった。→時間配分を考える。

・児童の作業スピードが異なり、暇な子が遊んでしまった。→待っている間の課題を考えておくべきだった。

・持ち物の確認、事前準備をもっと慎重に行うべきだった。

・事前に企画を経験した学生からアドバイスをもらうべきだった。

C. 参加児童感想文

学年	感想
4	自分たちの身のまわりには、多角形やいろいろな立体があります。球や多角形以外にも、ラグビーボールなど変わった形があるのでさがしてみたいです。
4	つかれたけど、楽しかった。
4	さいごまで作れなくてちょっとくやしかったです。
4	くやしかったとおもいました あと少しでした。
5	楽しかった
5	ボールの中にテープがつけれなくなって、むずかしかったです。
6	今日はちょっとやりなおしがあつたけれど、楽しかったです。

⑦1月16日（土）企画

A. 企画目標

a. 学生の目標

・新年初のオリジナル企画。各々の役割を把握し、企画・児童に対して適切な行動が取れる。

b. 児童の目標

・リニアの将来に触れながら、理科活動への関心を深める。

B. 学生活動報告

- ・オリジナルのリニアをデザインする時間の不足

説明不足とそれまでの児童の実験に対する意識が学生の予想よりも熱心であったために、時間が押してしまった。→タイムテーブルの詳細設定が必要、もしくはこの時間を無くす。

- ・前半部のアルミ棒が動かなかった児童に対する学生の対応

理論上では動くはずのアルミ棒だが、児童の制作物によって動かないものがあった。考えられる原因としては「電池の接触不良」「アルミ棒が長すぎる」「2本のアルミ棒の間隔が近すぎる、平行ではない」「磁石に隙間が開いている」ことが挙げられた。→それらが原因であることを学生側は見抜き、理解して対応できるようにする必要がある。

- ・危険区域の認識の甘さ

楽しさと児童の積極性を大切にしたい結果、実験を効果的に行うことができた。しかし、「こうしたらどうだろうか?」という児童の疑問が行動に移った結果、数人の児童が自分の教室（当日は立入禁止区域）へ行き、自分の用具を持ってくる事態になった。そんな中、一人の児童が自分の持ってきた道具でけがをしてしまった。→立入禁止区域の徹底した注意の必要性和班の担当学生の指導の不十分さ。

C. 参加児童感想文

学年	感想文
4	リニアのことを知れてよかった。
4	リニアモーターカーを作るのは楽しかったです。家でも工夫してたくさんはらせたいです。
4	おもしろかった。
4	楽しかったし、おもしろかった！！
4	リニアモーターカーはつくるのがむずかしかったけど、作れたので楽しかったです。
4	楽しかった。以上。
4	よくわかりました。たのしかった。むずかしかった。ひまなところもあった。
4	リニアのひみつがわかってたのしかったです
4	たのしかったです。
4	フレミングの左手の法則がおもしろかった。
4	リニアたのしかった。
4	はじめて分かって（走らせるの）楽しかったです。
4	リニアモーターカーを作って楽しかったのでまた作りたいと思いました。
4	じしゃくや電池がいっぱいあるほどはやくうごくことが分かって楽しかった
4	楽しかった（リニアが）以上！
5	楽しかった。＼(^0^)/じ石をはるのがむずかしかった(^。Д。)

6	今日は楽しかったです。英雄…
6	楽しく完成できてよかったです。
6	最初はどうなるかわからなかったけど思ったよりたのしかったです。
6	アルミ棒はもう二度とハサミで切らないと心にちかった。それ以外には楽しかった。

⑧2月13日（土）企画

A. 企画目標

a. 児童目標

- ・人工いくらが身近なものだと理解する。
- ・人工いくらを完成させる。

b. 学生目標

- ・G1 主観で行う企画は今回が最後なので、来年に向けて何かつかめるように意識しながら児童と接する。

B. 学生活動報告

a. 良かった点

- ・様々な色を工夫して楽しみながら作業に取り組んでいた。
- ・各班で扱う四色の色を自分たちが仕切つてきめようとしていた。
- ・色を混ぜる過程でより色を出すための話し合いをしているところを見かけた。
- ・ただ製作するだけでなく粒の形や容器に加える量を考えたりなどと完成後の見栄えを意識してくれている子供もいた。

b. 反省すべき点

- ・楽しむ一方でふざけ始める子供がいた。
- ・絵の具を使うために衣服が汚れてしまう可能性があったことを考慮すべきだった。
- ・グループ外での色の交換を行おうとしている子が多かったため、製作中に席を立つ子供が多かった。
- ・歓声が早かった子供は特に子供だけで帰ってしまうことがあった。
- ・ひたすらに粒を作っていたためにゴミや机の汚れがあつて、片付けが大変だった。

C. 参加児童感想文

学年	感想
4	これからもいきたい。
4	ぼくは人工イクラをやつてたのしいと思いました。
4	たのしかったです。
4	すごくすごかつたのしかったです！！
4	塩化カルシウムとアルギンさんの関係がちょっとだけ分かりました。人工カラフルイクラを作れて記念になつたし、楽しかったです。

4	きれいにできました。たのしかったです。
4	イクラは、色をはんの子とこうかんしあえてたのしかった。
4	たのしかったです。いくらをつくれてよかった。
4	今日は、イクラ（にせ物）をはじめて作って、とても楽しかった。イクラを作りすぎたけど、もう一度やりたいです。
4	人工いくらはすぐできてたのしかったです。またろうそくを作ったりいろいろなものを作りたいです。
4	楽しかったです！勉強にもなりました。またやりたいです♪また、いろいろなきかくお願いします。
4	今日は、人工イクラを作ってとても楽しかったです。自分にとっては、とてもいい色だな～と思います、色は、しゅ色、青色、緑いろ、黄色、赤色の5色です。ぼくは、しゅ色を玉にベースにしました。そしたら、とてもカラフルになって、とてもきれいな色になりました。ちょっとおたまじゃくしみたいのが、あまり形がきれいじゃなかったのもあったけど、カラフルにできてとてもうれしかったです。びんなどにいれて見てみるとおもしろい形をしてておもしろかったです。ふったりしたり、上か下にしてみたりなどと、色々ためしてみてみました。すると、それはそれはとてもきれいでした。家にもってかえて、お母さんやお父さんにもほめられたいです。にんていしょうももらってうれしかったです。
4	いくらのやつがカラフルにできたのでたのしかったです。
4	楽しかった。また行きたい。
4	たのしかったです。
4	イクラがとてもきれいだった。みんなしんせつだった。 いろんな先生がいた。いろいろむずかしかった。 イクラの形がすごかった。いろいろとざいりょうがすごい。 ふるとトルネードになった。またいきたい。 人工というみが分からなかった。じかいもたのしみ。 ものしりの人が多い。たのしくできました。
4	人工イクラ作り楽しかったです。いろいろな形や色が作れてよかったです。次回のろうそく作りもいきたいです。
5	失敗したけどたのしかった。
5	初めてやったのでとてもたのしかったです！
5	初めて人工いくらを作って楽しかったです。
6	人工イクラはすごくたのしかった。卒業します。
6	まちがいさがしみたいにひとつぶだけ入れてみました。楽しかったです。

6	ずっと前、サイエンスワールドで人工いくらを作ったことがあって、今日、どんなことができるかと楽しみにしていました。
---	--

⑨3月12日（土）企画

A. 企画目標

a. 学生の目標

- ・児童と触れ合うことで教員になり指導するときにどこに気を付けるか考える。
- ・楽しく、分かりやすく指導できるようにする。

b. 子どもの目標

- ・身近にある科学に興味をもち、理解しようとする態度を養う
- ・実験を通して科学の楽しさを感じる

B. 学生活動報告

a. 良かった点

- ・明確な役割分担
- ・各班の雰囲気
- ・様々な炎色反応の演示実験
- ・終了時間
- ・安全面の確保（立入禁止区域・薬品の管理・熱湯の管理など）
- ・スムーズな準備（しっかりとした予備実験）
- ・騒ぎすぎないほど良い雰囲気づくり（学生の声掛け）
- ・今までよりも落ち着かせられた（注目してほしいところできちんと聞く姿勢がとれた）
- ・映像を取り入れた点（児童の反応が良かった）
- ・メタノールの量を増やした点（前回の勝川小での失敗を踏まえて）

b. 改善点・悪かった点

- ・消火用雑巾の準備不足
- ・児童の反応をもっと拾う
- ・時間配分の見直し
- ・反応後のにおいを嫌がっていたので、あらかじめ換気しながら行うべきであった
- ・ホウ酸による炎色反応の色の変化が見えなかった
- ・鑑賞の仕方が班によってばらばらであったため、時間にばらつきが出た点（各班の学生に任せずに、統一的な動きが必要）

C. 参加児童感想文

学年	感想文
4	炎色反応でろうそくの色がかわるなんてびっくりしました。それがとってもおもしろかったです。また、土曜チャレンジアップ教室に行きたいです。

4	2回目で、ちょっときんちょうしたけれど、とても楽しかったです。炎色反応のことがしれて、おもしろかったです。また、土曜チャレンジアップ教室に来て、ベンキョうしたいです。
4	アンパンマンが強かった。
4	アンパンマンは何さいですか。こんどきたときおしえてください。おもしろかったです。またきたいです。
4	来年の土曜チャレンジアップもきたいと思った。
4	どうがきれいでした
4	マンパンマンは、けっこんしてる？次おしえてください！
4	もやしてみると色がちがったのでおもしろかった。
4	今日、いろんな火の色をみれてよかった。
4	楽しかったけど、大学生が自分の水をこぼした。みんながやっていないことをやった。ちゃんとまぜていないのに OK と言った。
4	いろんな色の火が見れてよかったです！！また、たんとうの人が少し・・・4月からもいいきかくしてくださーい！！バイバイ
4	ろうそくを作って、ストロンチウムをいれたら、まっかっかになりました。もっといろいろなのをいれてためしたいです。一年間ありがとうございました。
4	今回、入れる成分がちがうことで、火の色が変わることが分かりました。五年生になっても、よろしくおねがいします。
4	楽しかったけど、大学生の人がドジばかりしていた（2回友達のをこぼした。みんながやってないことを勝手にした。ちゃんとまぜてないのに OK にした）
4	宮部先生がおもしろく、教えてくれてよかった。たのしかったです。
4	楽しかった。いろいろなことも学べてよかった。たんとうの人が友達のざいりょうを2回もこぼしたから友達がかawaiiそうでした。五年生になってもまたきたいです。みんなのろうそくをもやしたら茶色になったけど、まぜてないといわれたけどたんとうの人は OK といっていました。
5	ろうそくをもやした時、きれいだなーと思った。来年また来たい。
5	初めてのチャレンジアップ教室だったけれど、いつもはみれない炎の色が見えておもしろかったです。ありがとうございました！！
5	ろうそく作りはたのしかったです。2回しかいけなかったので来年もさんかしたいです。ありがとうございました。
6	今日は楽しかったよ。中1に上がってもがんばります。
6	クエンサンなどをつかってもしたけれど一番きれいだったのは鋼でみどりでした。もうこないけれどたのしかったです。
6	ふだんではあまり気にしないことを知れました。そして、学校にある材料で赤や緑

	のろうそくができて楽しかったです。
6	緑ははっきり出なかったけれどたのしかったです。家でももやしたいです。
6	たのしかった
6	あまり色がはっきりしていなかったけどおもしろくて楽しかったです。家でもやってみたいです。

3. 活動報告①春日井市立 MA 小学校

(1) 学生紹介

①学生紹介

2 年生 木村拓海 藤井裕也 平野勝洋 松尾叔彦 松岡祐太 和田宋
1 年生 伊藤優樹 宇佐美大地 神谷濤男 鈴木俊佑 竹内翔哉 寺田達彦

②企画への参加者数と申込者

	6 月	7 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
	草木染	葉脈標本	チリメンモン スター	習字	算数	和風照明	人工イ クラ	リニアモ ーター	ろうそく
定員	30	30	30	30	30	30	20	20	30
申込人数	30	47	45	7	7	28	44	32	41
参加人数	30	30	29	6	5	28	29	18	30
欠席者	0	0	1	1	2	0	0	2	0
抽選漏れ	0	17	15	0	0	0	14	12	11
対象学年	小 4～6	小 4～6	小 1～6	小 4～6	小 4～6	小 4～6	小 4～6	小 4～6	小 4～6

(2) 学生活動報告

①6 月 13 日（土）企画

A. 企画目標

a. 学生の目標

- ・実際に児童と触れ合うことで将来教員になった際のデモンストレーション的経験を得る。
- ・自分たちにとっては当たり前のことでも、児童にとっては理解の域を超えることを意識し、わかりやすく効果的な指導方法を模索する。

b. 子どもの目標

- ・普段着ている服などの色の付け方の方法の一種を学び、日常生活に潜む疑問点を見つけるきっかけとする。
- ・身近にあるものを自分たちで作ることで、達成感、満足感を体験する。

B. 学生活動報告

a. 良かった点・工夫点

- ・子どもが楽しそうで、また来たいという声も聞こえた！
- ・教室に入ってきて緊張している児童に話しかけた。（内容は好きな教科など）
- ・座席を基本来た順にしたので、スムーズに誘導できた。
- ・指し棒に手品の棒を使う、クイズを入れる（またクイズに妖怪ウォッチを入れる）などの児童にうけそうな工夫をした
- ・司会者の言葉を各班の補助が反復し、かみ砕いて説明していた。

・事前に葉を煮込んだ液を持っていき、当日はそれをベースに更に煮込んだので、しっかり染まった。

・次回予告で実際のサンプルを用意したことで、次の活動にも興味を持ってもらえた。

b.悪かった点・改善点

・準備や打合せに参加する人が少なく、役割の自覚、やる内容・進行の理解度や準備物への意識が全体として非常に低かった。(最終準備は3人で苦勞した。)

・進行を理解している人が少なく、その人が進行に気がいってしまい、子どもへの対応がよい加減になってしまっていた。

・バイトや他の活動よりアカデミーを優先する意識を持たせた方がよい。

・期日や集合時間などに遅れる人が多かった。

・データが上手くメールで開けないこともあったので、メールでのやりとりは注意。

・台本を作る人と PowerPoint を作る人が別で、修正に苦勞した。

・当日の服装について、再認識が必要である。

・始まるまでに児童と関わっている人がほとんどいなかった。

・最初の「起立・礼・着席」を忘れた。

・打合せが不十分で司会者と PowerPoint の連携がまいちだった。

・企画書ではできた人からどんどんやるようにし、余った時間はプリント記入などの指示をしておいたが、理解している人が少なく、子どもが暇になってしまう班があった。

・豆乳から布を取り出すのが遅くなり、布を配るのが遅くなった。

・布を入れる前に葉っぱを鍋から取り出さなかったので煮込み・洗浄で苦勞した。

・染めなどの難しい漢字にふりがなを忘れた。

・金属イオンなど小学生が習っていないものを使ってしまった。また、金属イオンの詳しい説明がなく、児童が正しい理解をしていないと思う。

・講座で自分が使うもの・自分に関わるものは自分で用意する。(これは事前も当日も。でないと、どこにあるかわからなくなり、あとで苦勞する。)

・事前の注意はしてはあったが、火に近づき火傷しそうになった子がいたので、十分注意。

・手を洗いたいという子がいたので、手洗い場はあるとよい。

・子どもの発言や行動に対しての応答がよい加減。(最後、司会者に作品を見せる場面があったが、司会者が何のコメントもしなかったなど)

・体質でにおいがきついと危険な子がいたが、事前に知らなかった所以对応が遅れた。

C. 参加児童感想文

学年	感想
4	思っていた上においがきつかったけどかわいくできたので楽しかったです。
4	はじめてハンカチをヨモギとビーダマ、わゴムをつかってやったのが楽しかったけど、すこしくさかった。

4	よもぎのいろいろなことが分かりました。においはくさかったけど、ハンカチ作りは楽しかったです。
4	楽しかった！
4	とちゅうがくさくてつらかったけどできたときつらさがふきとぶぐらいうれしかった。
4	わゴムやビー玉をつかっていろいろな形をつくらせてヨモギもと리카ぶとも色々して楽しかった！
4	したことのない経験をして楽しかったです。また、やりたいと思いました。
4	たのしかったけど、すごくくさい！
4	たのしかったけど、くさかった！
4	ちょっとむずかしかったけどきれいに作れてうれしかったです。
4	ビー玉で作ったら円ができてわごむで作ったら線が出来ることを初めて知った。色んな形が出来て楽しかった。きれいに出来てうれしかった。
4	初ちょうせんだったけど楽しかったです。
4	くさかったけど、じょうずに出来てうれしかったです。また、やりたいと思いました。
5	豆乳が少しくさかったけど、おもしろかったです。
5	ミョウバンが集まってできていたやつがおもしろかったです。あと、全部手作業だったので世界に一つしかないのも、「いいな。」と思いました。
5	よもぎのにおいがくさかったけど、きれいにできて、楽しかったです！
5	初めてやってみてすごく楽しく、いいけいけんになりもう1ど参加をしたいです。
5	ヨモギは色が緑とか茶色になると思ったけど、黄色になるとは思わなかったのも、おどろきました。他の植物でもおもしろかったのでもやってみたいです。
5	今日は、よもぎの使ったハンカチを作りました。今日は本当にありがとう！
5	においがとてもくさかったけど楽しかった。できあがりごとれもうすかった。でも楽しかった！
5	楽しかった
5	もようをつくるのが、おもしろかったです。でもすこしむずかしかったです。
5	初めていつもとちがうように材料で作るのがとてもたのしかったです。またよもぎのクイズやミョウバンの話で楽しく学ぶことができてよかったです。次回も楽しみです。
5	おもしろかった。今後も草木ぞめをやりたいと思った

5	ヨモギについて知る事ができたし、楽しかった。今後、ちがう植物でもっといろんな物を使って、草木染をやりたいです。ヨモギは、食物せんいがあったりして、万能な植物だという事を知りました。
5	最初は、青むらさきが出来ると思っていたけど、黄色ができておもしろかった。ヨモギをつかってこんな色が出来てびっくりした。
6	とてもくさかったけど出来上がりがたのしみ。またきかいがあればやりたい。
6	ヨモギについていろいろ勉強できて楽しかったです。草木染をすることは今までやったことなかったけれど、今日できてうれしかったです。ぼくは工作なども好きなので、今日知った知識を生かしていきたいと思います。とてもいい経験ができたと思います。ありがとうございました。
6	よもぎをにこんだら、すごく、くさかったけど、楽しかったからまたやりたい！！
6	楽しかったです。思っていた色とちがう色にそまっておどろきました。また、いきたいと思いました。

③7月11日（土）企画

A. 企画目標

a. 児童の目標

- ・普段見慣れている葉の構造を知り、その意味を理解する。
- ・試薬の危険性について理解する。

b. 学生の目標

- ・児童に分かりやすく、かつ的確な指導をする。
- ・自分の役割を果たしつつ、周りにもしっかり目を向ける。

B. 参加児童感想文

学年	感想
4	おもしろくて楽しかった！2つも作品がつくれてうれしかった！
4	ようみやくに色をぬったりしたのが楽しかった。しおりをつくったりしたのがおもしろかった。またいきたいと思った。
4	べんきょうになった。たけうちしょうきちがよかった！おもしろかった。たのしかったです。
4	たのしかったのと、すぎやまさんがやさしかった。たけうちさんがみせろってうるさかった。
4	楽しかった またやりたい ぬるぬるとるのにじかんがかかった
4	とるときにきていにとれた。フォトフレームを作るのが楽しかった。
4	たのしかった
4	べんきょうになりました

4	いろいろわかって楽しかった
4	とてもきれいにできたりからふるでできてよかったです。
4	いろんなことをしれてうれしかった！
4	しおりを作るのが楽しかった。とくに、パチンと穴を開けるのがおもしろかった。ぺんでぬるのも楽しかった。
4	「ヒイラギ」と言う名前が知れてよかったです。葉に色づけするのが楽しかったです。またやりたいと思いました。
5	葉肉を取るところがおもしろかった。
5	葉脈のひょう本を作ってきれいにできたのでよかったですと思います。
5	失敗したことがたくさんあったけどたのしかったです。葉脈をみると中身がスカスカになっておもしろかったです。
5	とてもきれいにできたのでとてもうれしかったです。次の土ようチャレンジもとてもやりたいと思いました。
5	葉脈にインクをぬってかわいくフォトフレームをつくれることができてたのしかったです。
5	たのしかったです
5	色の組み合わせがむずかしかった。とてもきれいにできたからうれしかった。
5	葉脈の上からインクを塗ってきれいにぬることができました。とても楽しかったです
5	しおりをつくるのが楽しかった
5	はっぱにいろをつけるところがたのしかったです。きれいにできたので良かったです。
6	たんぱく質がとけてよう葉だけにしたところが楽しかったし、色ぬりなどもたのしかったです。
6	葉肉を取り除くのが難しかったです。とても楽しかったので、また参加したいと思いました。
6	葉脈がたくさんあったのでびっくりした。色がたくさんあって、様々なぬり方ができたから面白かった。
6	自分の好きな色（ガラ）でぬれて、たのしかった。

④9月19日（土）企画

A. 企画目標

a. 学生の目標

- ・教えるのではなく子どもが自発的に活動できるような関わり方について学ぶ。
- ・アクティブラーニング（学び合い）を使い、教育の流行の良さを感じる。

b.児童の目標

- ・進んで見つけ、発見する喜びを得ることができる。
- ・生物の存在の大切さに気付くことができる。

B. 参加児童感想文

学年	感想
1	たのしかった
1	ウオノコバンみつけたよ
1	イカみつけたよ
1	たのしくて、さかなのことが、わかりました。
1	たつのおとしごがみうかってよかったです
2	い生ものがこんなに大切たってことがわかりました。
2	見つけてないのを見つけるとつぎも見つけるぞってきもちになります。
2	さがすのがたいへんだったけどたのしかった
2	ヘイケガニとかマスとかを見てたのしかったです。
2	さがすのがたのしかったです。おしえてくれてありがとうございます！
3	タツノオトシゴをみつけて楽しかった。
3	チリモンの中にはタチウオなどのせいぶつがいました。しらすの中にはいって いたなんてしりませんでした。いろいろなことがしれてよかったです。
3	たのしかった。しらすの中にはいっているちりめんモンスターをみつけてた のしかった。
3	きょうは、すっごくすっごくたのしかったです。ありがとうございました。ま たきたいです。
3	楽しくていつまでもやれる
3	ちりめんの中にこんなにたくさんのモンスターがかくれていてとてもびっくり しました。たくさん小さい魚がかくれていて、むずかしかったけど、たのしか ったです。
3	ちいさないきものがこんなにおおきくなるなんて！！すごい！！
3	ちりめんをさがしてたのしかった
3	たのしかった
3	いろんな小さいせいぶつがいたので、むずかしかったけど楽しかったです。い ろいろなせいぶつを見れていろいろな名前がわかりました。
4	魚のことは、あまりしらなかったのていろいろしれて楽しかったです。またや りたいと思いました。
5	さがすのは、むずかしいけどたのしかった。

5	ちりめんもんすたーがいっぱいいて、びっくりしました。大きい物や小さい物があつた。
5	生命の大切さあらためて感じ、これたかも、もっともつとも食じができることにかんしゃをし、食べたい。ありがとうございました。
5	たのしかった！！
5	きょうは、とってもたのしかったです いろいろなちりめんモンスターを見つけてよかったです またさん加したいです
5	いろいろなものを見つけて、とても楽しかったです。
5	小さな生物がいないと人間がいきていけないから、小さな生き物はじゅうようだと思った
5	たくさんの種類の生物を見つけれたし、魚の特徴も知れた。自分たちがこの小さな生物たちに助けられているんだなあ。

⑤10月17日（土）企画

A. 企画目標

a. 学生の目標

- ・児童への指導を通して、教員らしい態度を身に着ける
- ・国語・書道の指導を体験し、将来指導する際の指導方法を考える。

b. 子どもの目標

- ・詩を作ることを通して、発想力や語彙を豊かにする。
- ・書道を通して道風のことを知り、春日井の新しい魅力を感じる。

B. 学生活動報告

a. 準備過程

- ・企画書や説明資料、準備物の発注など期日が守れずに、対応に困る場面が多くあつた。
- ・打ち合わせやリハーサルなど遅刻者・早退者が多く、学生の意識の低下が問題である。

b. 企画当日（学生について）

- ・集合時間を勘違いし濃くした学生がいた。→連絡を綿密に行う。
- ・春日井駅でタクシーが捕まらなかった。予約できないため、今後検討が必要である。

c. 反省点・改善点

- ・全体説明が不十分であり、話す内容も先走っていたことがあつた。全体の通しだけでなく、各自で練習が必要であつた。
- ・辞書を学生が持つことがあり、児童の辞書引きの練習にならなかった。
- ・最初、詩を作ることができない児童が多かった。見本を提示した方がよい。また、辞書なしで考えることができた児童はいなかった。

C. 参加児童感想文

学年	感想
4	たのしかった またきたーい
4	うまくできなかった。
4	むずかしかったけどたのしかった
5	今日は今日から君もをやらせてくれてありがとう。
5	少しむずかしかったけど楽しかった！
5	楽しかったです。週に一回は、書道をやるけど、詩を書くのは初めてなので、楽しかったです。詩もよくできたし、筆で書くのもきれいにできたと思います。詩を書くのが楽しかったので、また詩をかいてみたいと思いました。

⑥11月14日（土）企画

A. 企画目標

a. 児童目標

- ・身の回りに様々な図形が存在することを知る。
- ・サッカーボールを作ることを通して数学的思考を持つようになる。

b. 学生目標

- ・企画の内容についての意識を統一する。
- ・児童と先生の立場としての学生間での正しい関わり方を考える。

B. 学生活動報告

a. 良かった点

- ・参加児童が少なかったため、マンツーマンでの指導ができ、児童らの緊張感もほぐれたようだった。
- ・大学生が五角形や六角形の作成方法を教えるのではなく、すでに学習した児童が分からない児童に対して黒板を使って考え方を披露することにより、学校の授業のような形式になった。

b. 改善点

- ・サッカーボールのつくり方を分かっていない学生がおり、作成が進まず時間内に完成できないグループがあった。
- ・企画準備物の忘れ物（ノートパソコン・パワーポイント）があった。
- ・企画を時間内に終了させることができなかった。

C. 参加児童感想文

学年	感想
4	ラグビー
4	たのしかった。
5	たのしくボールをつくれてたのしかった。

5	五角形と六角形だけで、サッカーボールを作れるとは、思わなかったです。今回作って、時間はかかるけど、かんたんに作れることが分かったので、家でも、作りたいです。
5	サッカーボールを作るのが楽しかった。

⑦12月12日（土）企画

A. 企画目標

a. 学生の目標

- ・児童に積極的に接する。
- ・楽しく、分かりやすく指導できるようにする。
- ・時間を気にしながら進める。

b. 子どもの目標

- ・班で協力して作る。
- ・自分のオリジナルの和紙証明を作る。

B. 学生活動報告

a. 良かった点

- ・企画を始める前に児童とコミュニケーションをとることができた。
- ・班の児童の男女比がよかった。
- ・児童の感想文の中に学生に関する意見が多く書かれており、児童とコミュニケーションを取れていたことが分かった。

b. 反省点

- ・企画事前打ち合わせに連絡がなく欠席する学生が多く、なかなか全体での意思疎通が難しかった。その結果、企画中に学生同士の確認の会話が多く、企画の流れを把握できていない学生がいた。
- ・企画での忘れ物（新聞紙、のりが机につかないようにするため）があった。
- ・製作上の注意点を伝えられない場面があった。（はさみに注意する。ライトを人に向けないなど。）
- ・学生同士の交通手段を把握できていなかった。
- ・ライトの色が3色あったが、1色にすべきだった。
- ・筆の太さが班によってばらばらで、作品にのりを塗るときに細い筆では塗りにくかった。筆の太さを統一し、本数を増やした方がいい。

C. 参加児童感想文

学年	感想文
4	今日のはあんまり時間がなくてよくできなかったけど楽しかったです。Good！
4	サッカーボールより良かったです。嵐ー！
4	紙をはるたい変さとできたあとのうれしさがよかったです！

4	GOOD！！照明！！
4	みんなときょうりよくしながらできて楽しかったです。
4	たのしかった
4	きれいにもできたし、とても楽しかった。
4	花紙で色をつけていくのが楽しかった。ほねぐみに和紙をはるのがむずかしかった
4	和紙照明で和紙をはるのがめんどかったけど、かざりつけが楽しかったです。
5	作ってみて、とてもきれいで、楽しかったです。
5	みずのりがべたべたとついたけど、かざりとか和紙をはって最後にライトでてらしてきれいだったし、楽しかったです。
5	とても楽しかったです。くらくしたらとってもきれいでした。つくえをたんとうしてくれた白衣の先生のふかみさんもおもしろかったです。またやりたいと思いました。
5	今日は、すごくカワイイ和紙照明ができて、うれしかったです！
5	むずかしいところもあったけれど、色々おしえてくれたからたのしかったです
5	花をつくるのがむずかしかったけど、上手につくれたので、つかいたいです。今日は、楽しかったです。
5	今日、初めて土曜チャレンジアップ教室にきて、とても楽しかったです。次の土曜チャレンジアップ教室におうぼしたので、当たると嬉しいです。またきたいなと思いました。
5	初めてだったから、すごくワクワクしました！すごく楽しかったです！次の土曜チャレンジもやりたいです！まゆさんとのお話も楽しかったです！
5	今日は、とてもむずかしかったです。ほねもつけるのもむずかしかったです。 ①手紙をわたします。
5	初めて土曜チャレンジアップ教室をして、こんどの人工いくらもやってみたいとおもいました。すごくたのしかったです
5	とてもむずかしかったです。とくにかざりをつけるときに日づけをかざろうと思っても、なかなかつけることができませんでした。でも楽しかったです。
5	すごく楽しくて、作った後に、ライトを入れたら、きれいでした。つくえを担当してくれたお姉さんがとてもおもしろくて、たのしかったです！！次の「人工いくら」もおうぼしたいので、行きたいです！
5	意外におもしろかった。
5	和紙をはったり、色紙をはったりするのが楽しかったです。あと、同じ班のこと、たんとうの竹内さんのやりとりがコントみたいでおもしろかったです。できれば、もう一回やりたいです。あと、竹内さんのボケもツッコミもナイス！

5	和紙しょうめいを、じっさいにつくってみて、とてもたのしかったです！また じかいもいってみたいとおもいました！
5	初めてだったけど、とっても楽しくて、しっかり、かんこく語かけたのでよか ったです☆☆☆また、やりたいと思いました。
5	かみに、のりをぬるのが楽しかったです。今日のチャレンジアップ教室は今ま での中で一番たのしかったです。
6	はるのがむずかしくて、たいへんだった。がようしがかたくてあまりうまくは れなかった。
6	自分で作った作品がけっこう上手できて好きなようにできました。すごく簡単 につくれてすごく楽しかったです。暗いところで見ると本当にきれいに見れ て、うれしかったです。また工作があったらやりたいです。ありがとうございました。

⑧1月23日（土）企画

A. 企画目標

a. 児童目標

- ・人工イクラとは何か知り、その作り方を理解する。
- ・どうしたら綺麗な物が作れるか試行錯誤する。

b. 学生目標

- ・企画の内容についての意識を統一する。
- ・児童と先生の立場としての学生間での正しい関わり方を考える。

B. 学生活動報告

a. 良かった点

- ・子どもたちみんなが楽しそうにイクラ作りに夢中になったいた。
- ・子どもたち自らイクラの色を混ぜ合わせて混合色のイクラを作ったりと工夫していた。
- ・けがや大きなミスがなく、企画自体は進んでいったので良かった。
- ・学生側から問題を問いかける場面では多くの子どもたちが積極的に手をあげ発言していた。

イクラのつくり方の場面では困っている児童がいたが、学生が教えるのではなく子どもたち自身で教え合っている場面が見られたのでよかった。

b. 悪かった点

- ・企画はじめの方に時間配分を間違え、企画自体の進み具合が早すぎた。
- ・実験の説明不足な場面があった。
- ・人工イクラを実際に作る活動で時間が思ったよりかかり、企画を延長してしまう事態になった。
- ・企画後の片づけに相当な時間がかかるため、ある程度は子どもたちにも企画の時間内で

片づけをさせたほうが良かった。

C. 参加児童感想文

学年	感想文
4	いくらをさわってみると、プチプチってたのしかった。家とかでも、作ってみたいと思った。
4	楽しかった。
4	いくらをつくるときに、ひつついたりしておもしろかった。
4	説明がわかりやすく人工いくらを注射きでうつすのがすごかったのしかったです。でもなぜいくらになるのかわかりません。
4	いくらがきもりかった 楽しかった
4	プニプニだった。きれいだった。
4	まぜるのとかめんどくさかったけどたのしかった！
4	人工いくらは、さわたらとてもやわらかかったです
4	プニプニしてた。
4	土曜チャレンジアップは、はじめてやったのでちょっと失敗したけど次やる時は気をつけてやりたいです。
4	はじめて、土曜チャレンジアップに来たけど、とてもたのしかったからまた、おうぼしたいです。
4	注しゃきでどんどんおとすのが楽しかった。まだつぶになるのかが不思議。また、やりたいです。
4	きれいに人工イクラが作れてうれしかった。自分のオリジナルが作れたから楽しかった。
4	アルギンさんをまぜるのが楽しかった。注しゃ器からたらすのがむずかしかった。
4	ちゅうしゃきでたまを、おとしていくのが楽しかったです。でき上って、とてもきれいにしあがったのでうれしかったです。
5	注しゃ器でたらししていくのが少しむずかしかったです。きれいな色ができてよかったです。またやりたいです。
5	きれいにつくれたのでよかったです。ちゅうしゃきで色をたずのが、たのしかったです。またつくりたいです。ありがとうございました。
5	丸くなくてこまったりしたけどなんとかやれた。
5	今日は人工イクラを作れてたのしかったです。また土曜チャレンジアップ教室におうぼしたいです。
5	今日、一番むずかしかったのは、アルギン酸ナトリウムをとかすことが、一番むずかしかったです。でも、たのしかったので、よかったです。

5	すごくたのしく、色々なことをまなべてたのしくできました。ありがとうございます。
5	今日は、すごく楽しかったです。でも、少し、変ないくらもありました。なので、また土曜チャレンジアップ教室に行きたいです。
5	かんたんでおもしろくて、楽しかったです。ひとつぶずつたらせてやるのは、うっぱいくっついてへんな形になったけどできたときはうれしかったです。
5	大学生の人が、おもしろくて、楽しかった。ハプニングもあったけど、最後に、できたとき、うれしかった。
5	イクラのつぶを作るのがとても楽しかった。3色しか色をつかったらいけないのがざんねんだった。
5	すこし大へんだった。
5	今日初めて人工イクラを作りました。作っていると中にたくさんハプニングがあって、どうなることかと思ったけど、ようきに移してみるときれいになったので良かったです。また参加したいです。
6	まぜるのがつかれたけどたのしかった。
6	まぜるのが大変だった。丸をつくるのが楽しかった。

⑨2月20日（土）企画

A. 企画目標

a. 学生の目標

学生の役割を把握し、企画・児童に対して適切な行動がとれるようにする。

b. 児童の目標

リニアの将来に触れながら、理科活動への関心を深める。

B. 学生活動報告

a. 良かった点

- ・他の学生へのフォローができていた。学生たちが助け合いを心掛け企画に臨むことができた。
- ・危険行動の注意ができた。北城小で行った時の反省から、危険行動の注意を事前に行うことができ、安全に企画を進めることができた、

b. 反省点

- ・企画に対しての理解が不十分。企画書とパワーポイントの完成が遅く、本番当日にも学生同士で相談する場面があった。その結果、児童が自由に動いてしまう場面や児童に十分に理解させることができないことがあった。
- ・児童が暇な時の対処ができていない。児童たちの作業ペースによって、暇な児童が友達同士で企画とは無関係な話をする姿が見られた。企画に対して興味をもってもらえるような話題展開を学生たちが心掛けるべきであった。

C. 参加児童感想文

学年	感想
4	むずかしくてわからなかったけど、先生たちがおしえてくれたので分かりました！楽しかったです。
4	楽しかったーーーーー
4	リニアモーターカーなのに、リニアモーターぼうだったのがざんねん・・・！でも新しく「フレミングの法そく」を知れてよかった。きょうみがあるのでまたきたい。
4	アルミの棒が熱くなった
4	モーターカー！モーターカー！さいごむずい！むずい！
4	電池をふやせばふやすほど速く走ることがわかった。わからないところも教えてくれたので、またやりたいと思いました。
4	たのしかったーーーーー！
4	今日は完成はできてよかったけど、失敗したからちょっとくやしいです。けど今日は楽しかったので良かったです。次のやつも参加したいです。
4	リニアモーターカーはじしゃくでうごいていることをした。そしてたのしかった。
4	たのしかった。
5	このようなフレミングのほうそくを使いやけどをしないものをやってください。
5	実際に動かすことができてよかった。もっとスケールを大きくしたい。
5	最後は走らなくなった。
5	やけどして熱かったけれど、楽しかった
5	フレミングの法則はよくわからなかったけど楽しかったです。
5	たのしかったです
6	最初はむずかしくて動かなかったけど楽しくできました。ありがとうございます！！
6	「リニアモーターカー走れ」というきかくの実験に行けてうれしかったです。どうしたらアルミ棒が動くのかよく考え実験し、答えを見つけることができました。とても楽しかったです。また、どんなきかくでもやってみたいです。

⑩3月19日（土）企画

A. 企画目標

a. 学生の目標

児童と触れ合うことで教員になり指導するときにどこに気を付けるかを考える。

楽しく、わかりやすく指導できるようにする。

b. 子どもの目標

身近にある科学に興味をもち、理解しようとする態度を養う

実験を通して科学の楽しさを感じる

B. 学生活動報告

a. 良かった点

- ・荷物が到着するのが遅かったが素早く協力して準備ができ時間通りに間に合った。
- ・実験の理解を一人一人がしていたためスムーズにできた。
- ・子どもたちの笑顔を引き出すことができた。
- ・子どもたちにけがをさせずにできた。

b. 悪かった点

- ・スムーズに行き過ぎたせいか終わる時間が少し早くなった。
- ・指令書を配るタイミングを間違えた。
- ・池林が落ち着きなかった。
- ・薬品を配るタイミングをもう少し早めにするべきだった。

C. 参加児童感想文

学年	感想文
4	家などでできないことができたのでよかったし楽しかったです
4	少し変わったろうそくで、とっても楽しく勉強にもなったかなと思いました。
4	楽しかったし、おもしろかったのでよかったです。
4	楽しかったので、またきたいです。
4	楽しかった
4	楽しかった。火をつけるのが楽しかった。ひをつけたあとくさい。ちがうやつもやりたい。
4	メタノールの役割やステアルンさんの役割を知りました。とても楽しかったです。
4	楽しかった。(チャッカマンで火をつけるのが。)
4	たのしかったのでまたやりたい
4	きれいだった！たのしかった！おもしろかった！
4	色んないろになってきれいだった
4	ウンチ～
4	きれいなろうそくが作れたし、たのしかった。
4	ひもをえきたいにつけるのが楽しかった。でも、もやしたあと、とってもくさかった
5	大学生がいろんなギャグを見せてくれた。火の色がみどりになったり、赤になったり、きいろになってとてもびっくりしました。
5	いとにやくひんを入れたらひがつくことがわかった。
5	すごくくさくて失神しそうになりました。すごく楽しかったです。(たんとうの人がおもしろかったです。)

5	こなをかえるだけで、色がちがうのがビックリしました。来年も、土曜チャレンジアップもやりたいです。
5	楽しくできてよかったです。色々な物を混ぜると、色が変わることが分かりました。六年になってもまたやりたいです。
5	土曜チャレンジアップは2回目だけど、問題やおもしろいことがあってまたきたいなと思いました。緑と赤を混ぜると黄色になったのがきれいなだと思いました。1年間の中でマジックキャンドルがおもしろかったです。
5	作っているときに、お姉さんがやさしくおしえてくれたので、よかったです。大学生がネタをひろうしてくれたけど、おもしろくなかった。また土曜チャレンジアップ教室やりたい！
5	とっても楽しかったです。よくわからない。きいたことのない薬品がたくさんでてきて、おぼえにくかったけど、燃やせたのでよかったです。来年もまたやりたいです。
5	池林さんがギャグを見せてくれたけどおもしろくなかった。そしてじっけんはいがいとたのしくてまた土ようチャレンジをやりたいとおもった
5	何かを混ぜることで、色が変わることがおもしろかったです。来年もまた来ます。
5	火をつけた時、みどり色の炎が出て、すごかったです！次にまたできたらやりたいです。
5	池林くんがおもしろくなかった。だけどじっけんはおもしろかった。六年生になっても来たいと思いました。
5	今年さいごの土曜チャレンジアップ教室に当選してうれしかったです。そして1年間で一番楽しかったです。大学生がのネタがおもしろかったです。
6	ホウ酸は緑になるはずがオレンジになった
6	家ではめったにできない実験ができてよかったです。担当の人がわかりやすく説明してくれたので実験もまちがえないようにうまくできました。ホウ酸が緑で燃えているのが見たかったです。

4. 活動報告①春日井市立 KA 小学校

(1) 活動記録

①学生紹介

2 年生	崎元美穂	瀬古彩菜	塚原嘉津	松林大貴	山崎隆徳
1 年生	飯沼勝悟	池林幸太郎	春日部匠	鈴木綾乃	永江亜椰
	中嶋宏樹	成瀬賢一	丹羽真康	深見茉由	矢野まりな

②企画への参加者数と申込者

	6 月	9 月	10 月	11 月	2 月
	草木染	葉脈標本	算数工作	和風照明	ろうそく作り
定員	30	30	30	30	30
申込人数	49	35	22	32	33
参加人数	27	30	20	29	30
欠席者	3	0	2	3	0
抽選漏れ	19	5	0	0	3
対象学年	小 4～6	小 4～6	小 3～6	小 4～6	小 4～6

(2) 学生活動報告

①6 月 27 日 (土) 企画

A. 企画目標

a. 学生の目標

- ・児童と触れ合うことで教員になり指導するときにどこに気を付けるか考える。
- ・楽しく、分かりやすく指導できるようにする。

b. 子どもの目標

- ・今まで学習してきたことや日常生活にある色の疑問を見つけるきっかけになる。
- ・自分たちで作業することによって達成感を味わい、いろいろな草木に挑戦しようとする。

B. 学生活動報告

a. 良かった点

- ・怪我なく無事に終わったこと
- ・楽しそうに児童が活動に取り組んでくれたこと
- ・後片付けがスムーズに行えたこと
- ・児童への目標が達成できこと
- ・児童とうまく関わる事ができた

- ・秘書という設定設けたことでいろいろ動けて、フォローがしやすかった
- ・みんな笑顔で児童と接することができていた

b.反省点

- ・遅刻者が出たこと
→もう少し緊張感を持たせて参加させる
- ・当日の準備に時間がかかった
→指示を出すのを的確に指示する。自分の仕事だけでなく周りに目を配る
- ・前に出たときの声が小さい
→人前でも堂々と話せるようにする。リハーサルから台本を作ってきて本番さながらでやる
- ・下を向いて話している
→バインダーを持って話すのを全員で共有する
- ・鍋係が児童と関われなかった
→全員が児童と関われるように仕事を割り振る
- ・説明の仕方が分かりにくかった部分があった
→説明はこの説明で児童が理解できるか検討しながら話す（考える）
- ・説明が長い
→全員が何時にどこまでいったらいいかしっかり把握しておく
- ・全体の流れを理解しておらず、おかしいことを教えていた
→当日行く人はリハーサル、事前打ち合わせに参加して全体の流れを把握する
- ・楽しそうに話す
→いつもよりテンション高めて児童も楽しくなるように話す
- ・自分の話をしすぎている
- ・小学校にいる人には挨拶を必ずする

C. 参加児童感想文

学年	感想
4	たのしかったです。またやりたいです。
4	とてもたのしかったです。私は大きいビーズ1こと小さいビーズ2ついでミッキーマウスができるかなと思っていたけどヒマワリができました。こんどはミッキーを作りたいです。
4	わごむを2じゅうにしてとめてがらをつけるのは、むずかしかったけどたのしかったです。
4	きれいにできてたのしかった。
4	思っていたのと、すこしちがった。植物を使うことはしっていたけど、豆乳を使うことは知らなかった。（ミョウバンも）みんなの名前が言いにくい。 笑

4	きれいにできた
4	玉ねぎの皮のにおいがすごかった。自分のオリジナルの布が作れてよかった。また作りたい。
4	ミョウバンと豆乳と玉ねぎの皮で作れるとは思いませんでした。きれいにできてよかったです。
4	タマネギの皮でいろがついたので、とてもびっくりしました。とても楽しくて、おもしろかったです。
4	自由にできたのが楽しかった
4	楽しかった。きれいにできた。またやりたい
4	楽しかった。きれいにできた。
4	楽しかったです。むすぶのがおもしろかったです。
4	思ったよりきれいにできてよかった。あとひつようなものをよくしれてよかった。いろんなもようのつくりかたもおしえてもらったからいいさく品ができてよかった
4	とてもたのしくて、とても心にのこりました。
4	草木ぞめはいいがいにかんたんだった。
5	とても楽しかったです。ほかの色でも楽しみたいです。
5	草木染めはとても楽しかった。でも、輪ゴムをはずすのは大変だった。またやりたいです。
5	草木染めをやってみるとよそうどうりとはいかなかったけれどまあまあいい作品ができてよかった。
5	とても楽しかったです。すこしむずかしかったけど家でやりたいと思いました。
5	楽しかった
5	思っていたよりキレイにできました！あまり上手くうつらなかった所もあったけど、ひまわりみたいな夏っぽいもようができてとってもよかったです。楽しかったです。
5	ちょこっとむずかしかったけどいろいろしれて楽しかったです。またやりたいです。
5	輪ゴムでとめる所がむずかしかった。たまねぎで染めるとおうど色になった。色んな植物でやってみたいです。
6	最初はむずかしい言葉がたくさん出てきて、上手に出来るか心配だったけど、ビー玉や輪ゴムを使ってうまくできたので、うれしかったです。
6	初めは本当にできるか不安だったけど、実さいやってみると、楽しかったし、予想以上に上手にできました。

6	初めてやったので最初は「うまくできるかな」と心配だったけど、とても楽しかったです。それに、スタッフの人がとても優しく教えてくれたので、もっと楽しくなりました。布がどうしてもそまるのかも分ったし、方にも、ビワやアジサイでも染まることが分ったので良かったです。
---	--

③9月5日（土）企画

A. 企画目標

a. 児童の目標

- ・葉脈標本を作ること、葉の構造について興味をもつ
- ・葉脈標本を作ること、標本作りの基礎を学ぶ。

b. 学生の目標

- ・児童と触れ合うことで、接し方を学ぶ。
- ・模擬授業をすることで指導法を学ぶ。

④10月3日（土）企画

A. 企画目標

a. 学生の目標

- ・今までの企画の反省を頭に入れ、児童への接し方、指導方法などをレベルアップさせる
- ・堂々とし児童の目を見て話したりできるようにする

b. 子どもの目標

- ・算数を身近に感じ、楽しみながら算数を学ぶ
- ・助け合いながらいろいろな人と協力する

B. 学生活動報告

a. 良かった点

- ・パワーポイントのスライド内にて、児童らが使用している教科書のページを使って説明したため、児童の食いつきがよかった。
- ・児童が作成した五角形・六角形に自分のサインを書かせておいたため、自分のものがサッカーボールの一部に使われているということが目に見えて理解していたので、よかった。

b. 反省点

- ・学生の身支度（体育館シューズ・名札）の忘れ物があり、次回は注意したい。
- ・外誘導の人数が足りず、困る場面があった。
- ・受付が企画時間を把握し、遅刻者の人数を教室内に知らせるべきだった。開始時間が遅くなってしまった。
- ・全体の企画内容や制作の手順を理解していない学生がいるなど、企画内容の説明に不十分な場面があった。

- ・サッカーボールがどんな形をしているのか考えるのを重視した方がよかった。

C. 参加児童感想文

学年	感想
4	楽しかったです。
4	サッカーボールは五角形は12まいと六角形は20まいだったのでびっくりした。
4	最初は上手くできなかったけど、最後に上手にできてよかった。
4	サッカーボールは五角形は12まいと六角形20まいで出来ていることが分かった。
4	サッカーボールをつくるのは、時間がかかったけどたのしかったです。にこちゃんマークがいっぱいのサッカーボールでかわったボールになったのでよかったです。
4	たのしかった
4	サッカーボールは五角形は12、六角形は20まいで出来たということにおどろいた。どこまで多いとは思わなかった。白の数が青の数になった。
4	予想とぜんぜんちがう結末になって、五角形と六角形をあわせてつくるんだそうです。こんなのできるなんてとてもびっくりしました。
4	予そうより、五角形や六角形をたくさんつけたのでびっくりしました。とても楽しかったです。
4	サッカーボールの最後のぶひんのと看、テープをはるのがむずかしかった。にこちゃんマークがたくさんあるサッカーボールになれてよかったです。またサッカーボールをつくりたいです。ぶひんのまいすうがかぞえれてよかったです。
4	時間がなくなってできなくなったけど、楽しかったです。
4	時間がたりなかったけど、できたのでよかったです。楽しかったです。
4	ぎりぎりサッカーボールができてよかった。
5	サッカーボールが五角形と六角形でほんとにつくれることにおどろいた。サッカーボールの六角形が予想以上につかうことにおどろいた。次の「ランプシェード」ももしろそうだから来てみたい。先週の葉脈のしおりがとてもたのしかったです。また、そのようなものができるとうれしいです！！
5	サッカーボールを作るのはたのしかった。池林っていう人がおもしろくて、とても楽しかった。こんどはもっと大きいのを作りたいです。
5	つかれました。ただのこり5分以内にできたのでよかったです。キノピオおもしろかった。

5	サッカーボールを作るのは、とても大変でした。作っているときに取れてきたりしたりしたのが大変でした。でも楽しかったです。
5	ちょっとほうかいしてたけど、ギリギリでできた。とってもおもしろかった。家でも作りたい。
5	サッカーボールが出来た時、達成感があって、うれしかった。
6	とても上手にできてよかった。五角形と六角形の書き方も分かったし、じっさいに作れてたのしかった。むずかしかったけど、算数の楽しさがよく分かった。

⑤10月31日（土）企画

A. 企画目標

a. 学生の目標

- ・児童と触れ合うことで教員になり指導するときにどこに気を付けるか考える。
- ・楽しく、分かりやすく指導できるようにする。

b. 子どもの目標

- ・日本の伝統工芸である和紙の性質について知り、それを生かして和紙照明を作る。
- ・班で協力して作ること学年を超えた助け合いをする。

B. 学生活動報告

a. 反省点

- ・大学生が児童に気を取られてしまい、時間が押してしまった。
- ・受付に早く来る児童がいるため、最初に受付の準備を整えておく必要があった。
- ・参加児童に対して、のりの個数や鑑賞スペースが足りず、なかなか進行しない場面があった。シミュレーションが必要である。
- ・企画前に児童とコミュニケーションをとるべきだった。
- ・活動には個人差があるため、できた児童への新たな課題などフォローが必要だった。
- ・活動時間はタイマーを使うなど、明確にした方がいいと思った。
- ・鑑賞時には、作品の良い点を声掛けするなどの対応が必要である。

C. 参加児童感想文

学年	感想
4	色紙をちぎってはるのがたのしかったです。
4	私は、さいしょあまりきれいに作れないと思っていたけど、にこちゃんときょう力してやったので、きれいにできました。みんなのしょう明もみたけど、私のよりすごくきれいでした。また、やりたいです。
4	しょうめいづくりは楽しかったです。
4	たこにみえなかった。たのしかった。
4	たのしかった

4	作ってみたら、みためよりもおもしろかった。いがいと中がうすくひかってきれいだった。
4	和紙たのしかった。またきたい。
4	和紙をはるのが大変だった。花紙はとてもふわふわしていてまたこれをはるのが大変だった。
4	たこにみえなかった。たのしかった。
4	楽しかった。また来たい。画用紙全色もらおう。
4	和紙の下に色の紙をおくと、とてもきれいでした。楽しかったです。
4	はるのが楽しかった。
4	楽しかったです。きれいでした。次も来たいです。ありがとうございました。
4	楽しかった。たこにみえなかった。
4	はるのがたのしかった。あとライトでてらしたとききれいでうれしかった。
4	楽しかった
4	かざりつけのところが、すごくたのしかった。
5	とてもきれいで楽しかったです。ちぎってはったりしておもしろかった。したに色紙をひいてもきれいでバリエーションがいろいろありました。
5	紙をはるのはたいへんだったけど、とても楽しかった。
5	やってみつろいがいにぴんくがききとてもよいかんじになりよかった。べんりなでんきもありがとうございます。
5	とてもきれいだった。
5	この和風照明を作るのは楽しかったし、家でも作れそうだから家でもつくろうと思いました。
5	今日は、花紙をはるのがむずかしかったです。紙を細くして、はってもきれいでした。
5	のりではったり形をつくったりして、とてもおもしろかった。家でもつくってみたい。
5	とてもキレイだった。思ったよりとてもよかった。またやりたいと思った。
5	和紙照明を作ってきれいにできた。
6	和紙照明のかざりつけは、最初かんたんだと思っていたら、すごく難しかったです。完成したら、部屋にかざりたいです。
6	とても楽しかったです！！また家で作ってみたいです。
6	和紙を使う時、とれやすく、むずかしいことが分かった。和紙の良さと、あわせるのが良いことが、良く分かった。

⑥2月6日（土）企画

A. 企画目標

a. 学生の目標

- ・児童と触れ合うことで教員になり指導するときにどこに気を付けるか考える。
- ・楽しく、分かりやすく指導できるようにする。

b. 子どもの目標

- ・身近にある科学に興味をもち、理解しようとする態度を養う
- ・実験を通して科学の楽しさを感じる

B. 学生活動報告

a. 反省点

教卓の回りに子どもたちを集めるときにはマスキングテープなどで境界線を引く。

実験説明をしているときにバットにお湯を入れる

お湯の温度が冷めない工夫が必要

お湯の運搬方法を検討する必要がある

使い終わった道具の片づけを統一する。

鑑賞会では思った以上に煙が出るので換気が必要である。

C. 参加児童感想文

学年	感想
4	今日はいろいろなじっけんができておもしろかった 海に行ったら流木をひろって火をつけてみたい。よそうがはずれたけどまたやりたい。来年もさん加したい。
4	いろいろなことがしれた たのしかったです。またやりたいです。
4	ろうそくのいろがとてもきれいだった
4	今日はいろんなものを作れてたのしかった 5年になってもやりたい
4	楽しかった。
4	おもしろかったです。もんだいのホウさん、ストロンチウムの色がはんたいでした。 しゃしんとはちがったけれど、4回ぐらいあたってたのでまんぞくです。 またらいねんもべつの団体であればそれできてください。今のひとがいれば、その人でもいいです。
4	黄色の火はつかなかったけど赤色とみどり色がついたらよかった。
4	とても楽しかったです。色がかわったりするのに不思議に思いました。強大なサッカーボールを使ったことがおもしろかったです。
4	ひもをつけるときにおもしろかった。
4	楽しかった。もっとほかの色のも見たい。
4	社長のまねがおもしろかった。

4	ホウ酸や塩化ストロンチウムを入れることによって、炎の色が変わったのでびっくりしました。楽しかったです。
4	色が変わってすごかった。
4	色が変わっておもしろかった。らい年もまたきたい。
4	一年間で何回もチャレンジアップ教室に来たけど、いろいろなことをたくさん学べて楽しかったです。
4	ホウ酸や塩化ストロンチウムを入れることによって色が変わったからおもしろかった。
5	色が変わるのが不思議だった。楽しかった。こ年はこれで終わりなのは、残念だった。
5	かなりむずかしくなかなか書けなかった。最後というのはざんねんだけれど来年もチャレンジをしていきたいと思う。火の色はいがいだったしばらくもやすととうめいになっていた。
5	今日習ったことをこれからも生かしたいです。メタノール、ステアリン酸の役割が分かれてよかったです。
5	楽しかった。火の物は使い捨てなのでざんねん。ピンク、水色、こん色とかの色は何の成分でできるの？
5	燃やした時の色がとてもきれいだった。また行きたいと思った。
5	ホウ酸が緑だと思わなかった 理科の実験が楽しかった。
5	みんなでどんな色に変わるか、楽しく観察できておもしろかったです。ありがとうございました。
6	私は初めて参加してとてもきんちょうしたけど、大学生の人たちがたのしくしてくれてとてもよかったです。もっとさんかできたらよかったです。もっとたのしいきかくもしてください！ありがとうございました。
6	炎の色が思ったよりはっきり出ておもしろくてきれいでした。もっといろいろな炎の色を見たいです。学校の実験とはちがって、おもしろかったです。
6	赤と緑の炎がとてもきれいで楽しかったし、いい勉強になりました。中学、高校でも今日やったことを生かしたいと思う。次は黄金やにじ色の炎をみたい！
6	今日私は2回目なのですが、ここまでのチャレンジアップ教室で理科のことで知らなかったことも知ることができたし、理科がもっと好きになれたので、中学校や高校でも、この経験をいかしていきたいです。
6	科学で炎の色がかわる最きんはこうゆうわからないことがたくさんあってワクワクドキドキでいっぱいです。たんじょう日でつかってみんなをおどろかせてみたいです。またいろいろおしてえてください。

6	今日は始めてチャレンジアップ教室に来て、たのしかった。またこうゆうき かいがあったら、また来たいです。
---	--

5. 学生及び教員からの意見

(1) 土曜チャレンジ・アップ教室を振り返って（学生から）

土曜チャレンジ・アップ教室に参加する学生を対象に12月中旬に、アンケートを実施した。アンケート回答者は24名（KI小担当学生9名・MA小担当学生7名・KA小担当学生8名）。アンケートの結果は以下の通りである。

① 土曜チャレンジ・アップ教室を通して身についた力とその理由

【責任感】回答者3名

- ・自分が任されたところは責任をもってやる。(1年・男)
- ・持ち回りの仕事に対して、きちんと行わなければならないという使命感も同時に獲得した。(1年・男)
- ・リーダーとして現状を把握しつつ、どうしたら企画が上手にまわっていくかを考えるようになり、仕事は最後までやり遂げる力がついた(2年・男)

【積極性】回答者3名

- ・教師になっても子どもとの会話はついてくるので、積極的に話して話す力を身に着きたいから。(1年・男)
- ・長期間の活動を通し、スキルの習得に伴い、積極的に子どもに向かえるようになったと思う。(1年・男)
- ・子どもと関わる活動回数を重ねていくうちに慣れてきて、自分から子どもたちに話しかけられるようになってきて、楽しくなってきた。(1年・女)

【計画性】回答者3名

- ・自分で1つの授業を作り上げたことで、準備をするのをいつまでにするのかといったことを気にするようになったから。(2年・男)
- ・児童にどうしたら楽しんでもらえるのか、分かりやすいのかを考え、よりよい方法を綿密に練り直し、手順に沿って順番に計画していったから。(2年・男)
- ・自分でも考えたりもするけど、他の良い企画も見れたり、失敗や反省を踏まえて話し合ったりするので、色々な知識や計画を作る力を得られた。(2年・男)

【向上心】回答者2名

- ・子どもの心の開き方を考えたり、子どもをうまく参加させる方法を考えるなどよりよく進められるように努力した。(1年・男)
- ・児童たちの反応をうかがいながら、どのようにすればもっと集中してくれるのか、夢中になるのか、楽しんでもくれるのかを自然と考えるようになった。(2年・男)

【指導力】回答者2名

- ・みんなの前に出て話すのが上手にできるようになった。また、児童とのふれあい方、どのようにしたら話を聞いてくれるかなど分かった。(1年・女)
- ・前に出たり、全体を見たり、臨機応変で対応することができた。いろいろな子ども

の対応をすることができた（声掛けなど）（2年・女）

【総合力】回答者2名

- ・自分が笑顔になれば子どもの笑顔になるということに気づき、自分が楽しそうにして子どもを楽しませたため。（1年・男）
- ・班員を見て指導したり、児童とのかかわり方や考えさせたりすることがあり、総合的に力がついたと思う。（2年・男）

【演技力】回答者1名

- ・指導している自分はいつもより行き来と話せている気がする。（1年・男）

【探求心】回答者1名

- ・子どもたちの反応や企画の流れを考えながら、声掛けをしたり、活動の説明をするためには、自分からどのように動けばいいかを探求心を持つ必要があると思った。（1年・男）

【発信力】回答者1名

- ・小学校で前にでて話す機会があったため。（2年・男）

【情報伝達能力】回答者1名

- ・情報を整理かつ正確に伝えないと話し合い及び当日にミスが起こるため。（2年・男）

【人前で話す力】回答者1名

- ・最初は子どもたちの前で話すとき、台本や机、下を向いてしか話せなかったが、今は子どもたちの方を向いて、様子を見ながら話すことができるようになった。（1年・女）

【判断力】回答者1名

- ・子どもたちが予想外の行動や発想をしたときに、機転を効かせることができるようになってきたから。（1年・女）

【活発性】回答者1名

- ・始めのころとは違い、自分から積極的に子どもと接することができるようになった。（1年・男）

【柔軟性】回答者1名

- ・子どもたちの企画の進み具合に応じて、企画の進行スピードを調整することや子どもたちの状態に応じて言葉かけを変化させることができるようになった。（2年・男）

【子どもと接する力】回答者1名

- ・低学年とは違った接し方ができるようになってきたと思うから。（2年・女）

② 全体を通しての感想

【異学年との交流】

- ・子どもとの関わりができてよかったことはもちろんであるが、先輩も優しくて、同級

生も仲良くて本当に入ってよかった。(1年・女)

- ・違う学年と1つの企画を作れるのが楽しかった。(2年・男)
- ・回数を重ねていくにつれて、少しずつ企画を楽しめるようになった。1年生の成長ぶりに驚いた。(2年・男)

【企画の立案・準備】

- ・企画を行う前の大学内や小学校での事前準備や子どもたちをどのように楽しませるかを考えるためには、様々な試行錯誤が必要なことを体験を通して学ぶことができた。(1年・男)
- ・活動の準備がとても大切なことだと思った。来年は準備に重点をおきたい。(1年・女)
- ・児童に合わせた企画や分かりやすい流れを考えるのがとてもいい経験になった。(2年・男)
- ・今回の企画がなければ、企画内容を考えたりすることがなかったので、力がついたと思う。(2年・男)

【小学生との交流・指導】

- ・最初は緊張と軽いパニックがあったが、最近の活動では表情も柔らかくなり、子どもとの触れ合いも笑顔が増えたように感じる。(1年・男)
- ・学年や性別で接し方を変える必要があり、難しいと感じた。特に中学年に対してはこれからもチャレンジしたい。子どもをうまく説明に引き付ける力をつけたい。(1年・男)
- ・授業を重ねるうちに、声のかけ方や注意の仕方を工夫するようになった。子どもたちがとにかく楽しそうに参加してくれるのが嬉しかった。(1年・男)
- ・子どもたちが可愛かったです。楽しかった。(1年・女)
- ・回数を重なるにつれてコツをつかんだり、説明のとき分かりやすくするポイントを学び、子どもたちと積極的に関わることができて、参加してよかったと思う。素晴らしい経験になった。(1年・女)
- ・第一に、楽しかったと思えたのがよかった。また、児童と触れ合え、様々な反応が見れるのが良かった。(1年・女)
- ・小学校に実際に行くことで、その場の雰囲気や企画の見方や支持の仕方などが学べた。いろいろな事柄に対応できるようになるので良いと思った。(2年・男)
- ・子どもに対しての様々な声掛けができるようになり、観察実習でも活用できた。本当に勉強になった。(2年・女)
- ・子どもの素が見れてとても楽しかった。準備が忙しかった分充実感もあった。(2年・女)

【個人に対する感想】

- ・自分が教師としての力が未熟であることを実感した。(1年・男)

- ・すごい楽しくやれたので、来年も参加したい。(1年・男)
- ・自分で考えて活動できる企画に参加できてよかった。この1年で成長できたと思う。
(2年・男)
- ・授業に近い形で子どもたちに教えるという体験ができて楽しかった。(2年・男)
- ・自分が話したいことをうまく話すことができないので、その場での対応力をもっと
つけたい。(1年・男)
- ・教師らしい体験ができて、より興味がわいた。(1年・男)
- ・楽しく活動できたが、学生同士の意識の差を感じた。(2年・男)
- ・企画案の構成の難しさ、何週間も前からする企画準備の大変さ、企画の説明の難し
さ、自分自身の実力不足の実感など多くのことを考えさせられました。(1年・男)

(2) 土曜チャレンジ・アップ教室を振り返って(教員から)

春日井市教育委員会から中部大学あてに、土曜チャレンジ・アップ教室に関する依頼連絡をいただいたのは、平成27年3月17日のことであった。春日井市教育委員会から「土曜日に様々な経験を積んでいる子どもたちがいる一方で、必ずしも有意義に過ごせていない子どもたちも少なからずいる。春日井市では、子どもたちの自主性を高め、幅広い成長を促すとともに可能性を広げるため、土曜日を有効に活用した多様な活動を実施したい。」との依頼であった。子どもアカデミーでは、2014年度までに大学へ小学生を招いたサイエンスプログラムを実施していた。同様のプログラムを大学内ではなく、小学校現場にて活動させていただく貴重なこの機会は学生にとって有意義な時間になると考え、参加させていただくことになった。

4月に入り、春日井市教育委員会のご支援のもと、年間スケジュールと土曜チャレンジ・アップ教室を実施する春日井市立小学校3校が決定し、活動が始まった。事前準備として、春日井市教育委員会のご支援のもと、土曜チャレンジ・アップ教室を実施する各小学校の家庭科室の下見を各小学校の校長先生、教頭先生、教務主任の先生方によるご協力を得て、5月下旬に行った。下見では各小学校へ代表学生3~4名が参加し、土曜チャレンジ・アップ教室を開催する教室の場所や室内の配置、備品の個数、さらには大学生や児童の動線を確認した。また学内では、教科指導教員による企画内容や小学生への指導方法についての研修会のほか、小学校における活動への心構えや身だしなみなどの助言を行った。

6月に入り、土曜チャレンジ・アップ教室が始動した。2016年3月までに、のべ552名の児童が参加してくれ、複数回にわたり継続して参加する児童もいた。土曜チャレンジ・アップ教室の最後には児童らの感想を簡単にまとめて提出してもらった。児童らの素直な反応は、企画内容の構成や学生の説明方法に加え、土曜チャレンジ・アップ教室を見直すきっかけとなり、次の企画を考える際の学生らの励みになった。また、土曜チャレンジ・アップ教室を終えた学生からは上記のような感想が得られ、小学校現場での体験が学生自身の成長とともに、個人の課題を得たことが伺える。以下では、土曜チャレンジ・アップ教室に立

ち会った教員の学生の活動に対する意見の中から特に多かった意見を列挙した。

- ・活動の反省を行い、次の活動に生かしてほしい。
- ・グループリーダーが1人で活動する姿が見られ（準備や片づけ）、学生同士のコミュニケーションを大切にしてほしい。
- ・児童に対して安全面に対する危機管理の意義を説明する必要がある。
- ・企画内容を学生全員が細かくチェックする必要がある。

最後に、春日井市教育委員会と学校長に貴重な機会をいただいたこと、そして、指導運営委員の方々には、土曜チャレンジ・アップ教室における安全面の配慮や児童への接し方についてご指導ことに深く感謝したい。

Ⅱ 夏季学習支援

1. 夏季学習支援の概要

(1) 活動の経緯・趣旨

春日井市立F小学校では、夏休み期間に、1～6年生の希望者を対象に学習相談日（1学期の学習内容（主に算数）の復習）が設けられている。この度、学校長より児童教育学科に対して、学習指導を行う担任教師の補助者の派遣依頼があった。学習相談日は、参加する児童の学力補充とともに学習意欲を高めることがねらいであることから、子どもアカデミーの学生の参加を募り、「夏季学習支援活動」として派遣依頼に応じるようになった。本活動は、春日井市教育委員会学校教育課の仲介と支援のもとに実施した。

(2) 活動スケジュール

夏季学習支援は7月28日（火）～30日（木）9時～10時半の3日間行われた。活動の前に学科の教科教員（算数）から算数指導に関する講義90分を受けた学生が小学校に出向いた。今年度の夏季学習支援では、23名（1年生15名、2年生8名）の学生が参加し、3日間で小学1～6年生の児童はのべ172名参加した。3日間の学生数は以下の通りである。

夏季学習支援スケジュール

	7/28	7/29	7/30
学生数	23名	20名	17名

2. 学生及び教員からの意見

1) 夏季学習支援を終えて（学生から）

参加する学生を対象に7月下旬に、感想を書いてもらった。回答者は8名。

小学1年生担当の学生より

・1日だけ1年生クラスに参加ということで、最初は子どもたちとどう触れ合っていこうか、上手く教えることができるかどうか、不安な面が数多くあったのですが、子どもたちとすぐに仲良くなれたしこちら側も勉強になることばかりでした。子どもたちからすごく元気をもらったし、何より楽しかったです。貴重な経験になりました。本当にありがとうございました。（1年・女子）

・2日間ありがとうございました。1日目につけなかった平仮名がかけていたり、指を使う計算が早くなったりと驚くことがいくつもありました。とっても可愛い笑顔をずっとみられて自分もとても笑顔になれました。今回はほんの少しふれただけで楽しいとしかかんじなかったのですが、大変変なこと辛いこともたくさんあると思います。でもこの体験を元にして、頑張っていきます。ありがとうございました。（1年・女子）

小学2年生担当の学生より

・学習支援のお手伝いを3日間経験させていただきありがとうございました。難しい問題やつまづいている問題をいかに分かりやすく、楽しく教えるかということを意識していました。どこでつまづいているのか考えたるすぐのがかなり大変でしたが、そこを分かってあげること、また指導しやすくなり、とても内容の濃い3日間を過ごすことができました。この3日間で、自分でできたことできなかったことなど、色々なことがあったので、それを生かして、さらに先につなげていきたいと思います。児童が分からなかった問題を分かるようになった時に見せる笑顔がとても輝いていてそのたびに教えてよかったと思えることがなんどもありました。そういった面を含めて、本当に良い経験ができました。3日間本当にありがとうございました。(2年・男子)

・3日間本当にありがとうございました。今日は、見ていた子2人が2人ともよくしゃべる子で、少し大変でした。それでも、後半の算数のプリントの時は、みんな集中していてどんどん進めていっていたので、すごいなと思いました。今回の体験を通して絶対に将来生かしていきたいと思います。(1年・男子)

小学4年生担当の学生より

・3日間ありがとうございました。今日は子どもたちと自然に会話し、教えることができました。少し成長したのかなと思いました。実際に小学生に勉強を教えることは、ほとんどないと思うので、この3日間本当に貴重な経験をすることができました。この経験を今後に生かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。(1年・男子)

・今日は説明に時間がかかりすぎ、指導していない子どもを待たせてしまう時間が長くなってしまい、集中を欠けさせてしまった。これがクラス40人近い規模になるとすると全体をしっかりと指導するのは本当に大変なんだと感じた。この3日間とても貴重な体験ができました。ありがとうございました。(1年・男子)

小学6年生担当の学生より

・3日間という短い間でしたが、ありがとうございました。小学校という現場で五教科のどれかを教えるのは初めてでしたので、とても難しかったです。分からないというのも人それぞれでしたので、どの子がどこが分からないのか、また何故わからないのかをしっかりと理解して、ちゃんとした指導ができるように頑張ります。本当にありがとうございました。(1年・男子)

・今日は、3日目だからか、みんなのやる気が少しなかったように感じました。算数へのやる気を出せたかは、出せなかったように思いますが少しでもできたと感じてもらえていたらいいなと思います。分数の約分の忘れや計算のスピードの遅さが目立ちましたね。間違えることを恐れないでほしいですね。教え方が分からなかった時もありましたが、よい経

験ができてよかったです！！（1年・女子）

2）夏季学習支援を終えて（教員から）

春日井市立F小学校から中部大学あてに派遣依頼の書面をいただいたのは平成27年6月22日のことであった。児童の学力向上を目指した学習会の補助のため学生を派遣してほしい、また地域連携の機会としたいとの依頼を受け、子どもアカデミーの活動にとっても絶好の機会であり、参加させていただくことになった。

事前準備として、小学校での校長先生、教頭先生、教務主任の先生方によるオリエンテーションがあり、代表学生が4名、教員2名が出席した。また大学においても先に述べたように主に算数科の教員によって授業内容等を確認する機会を設けた。さらに、教育実習未経験の1,2年生であるアカデミー学生を派遣するため、小学校での指導補助者としての心構えや身だしなみ等の細かい助言を行った。学生たちは、初めて、児童に対して小学校に出向いて学習支援を行うという体験を前に、大きな期待と不安を持って当日を迎えた様子であった。

そして3日間の活動を終えた学生からは、充実した時間であったこと、児童のひたむきな学習態度や先生方の巧みで暖かい指導のあり方に感銘を受けたことなどの感想が聞かれた。少ししか参加できなかった学生は、是非次回には、と早くも先を楽しみにしている。

大学の担当教員としては、まず春日井市教育委員会と学校長に貴重な機会をいただいたことに深く感謝したい。そしてさらに、担任の先生方が、児童の指導の手本を見せて下さったばかりでなく、参加した学生たちに対してまで毎日コメントを書いて学生に渡して下さったこと、また直接口頭でも指導して下さったことに重ねてお礼を申し上げたい。先生方のご配慮に満ちたコメントをいただいた学生たちは、教師を目指してさらに自覚が高まり、日々の学生生活によい影響があったのではないかと推察している。

このような学習支援の機会は、是非とも今後も継続させていただきたい。春日井市教育委員会およびF小学校からは次年度にも同様の時期に開催したい旨の連絡があり、現在時期を調整しているところである。次年度実施の運びになれば、今回以上の事前準備を行い、児童の学力向上、地域貢献の活動に参画しながら、子どもアカデミーの活動の充実を図っていきたいと考えている。

成果公表

三島浩路ほか 9 名 (2015)「大学生の「教育的人間力」育成を目指した実践報告—児童を対象とした学習支援活動を通して—」中部大学現代教育学研究紀要第 9 号、pp. 41-47

味岡ゆいほか 9 名 (2015)「子どもの学びを支援する課題活動に関わる大学生の意識調査—「なるほど！子どもアカデミー2014」の現状と課題—」中部大学現代教育学研究紀要第 9 号、pp. 49-54

吉田直子 (2015)「3 年目の「子どもアカデミー」活動」ANTENNA No.131 p.12

新聞報道

中日新聞「体験学習を通じ生き方や夢、春日井 4 小学校で土曜教室」、2015 年 6 月 14 日、夕刊

2015 年 (平成 27 年) 6 月 14 日 (日)

春日井 4 小学校で土曜教室

体験学習通じ生き方や夢

子どもたちに土曜日を有意義に過ごしてもらう「土曜チャレンジャークラス」が、春日井市内の四小学校で始まった。多様な体験型学習や世代を超えた交流を通して、子どもたちに生きる力を持つてもらいたいと期待が高まっている。

この教室は、市が二〇一三年の学校教育法の施行規則改正と施行を受け、本年度から月に一回開いている。地域住民や地元の中部大の学生らを「先生」に、スポーツや、書道、将棋などの文化活動を体験する。

平日の授業と違い、体験型の学習をすることによって、学ぶ楽しさや興味、関心の幅を広げることができる。市教委が

教育課の勝伸博課長は「普段の学校の授業ではできないような生き方を学べる。将来の夢を持った子どもが、将来の夢を持ったり、やるきになってほしい」と話す。

今月六日、金ケ口町の北城小で開かれたチャレンジャークラスは、四校から六十人参加。第一に打ち解けて、次いで、草花染に挑戦した。

初めに学生が草花染の方法について説明。続いて、白いハンカチを染めていく。染め終ったハンカチを、ハンカチ生の人たちは面白いし、

先生役の大学生と一緒にハンカチを染める子どもたち＝春日井市北城小で

お兄さんができたみたいで楽しい」と満足そう。六年の馬渡悠希さん(二)は「草花染は初めて経験した。学校でできないことが体験できるなら次も参加したい」と前向きに話している。

話してとても大切なことを学んだと思った。豊かな人間性を身に付ける体験学習は、平日の授業に組み込む」とは難しい。土曜日が子どもたちにとって成長の機会になつてほしいと思う。(連野直郎)

五月二十日には、勝川小でもあり、来年のリオデジャネイロ・パラリンピック出場を目指す車いすラグビーの選手九人が模擬試合を披露。選手たちは「障害があることでできないことを悲しむのではなく、自分のできることを見つけることが大切」と語り掛けた。

文部科学省は、土曜日の教育活動を推進しており、小牧、犬山両市でも土曜日を活用した学習を始めている。地元愛知6区選出の衆議院議員で文科副大臣の丹羽秀樹さんは「家庭環境によって子どもが違つて、学べる環境を整えて、地域で子どもの学びを支える場になれば」と話している。

活動情報の公開

なるほど！子どもアカデミーの HP を開設し、活動の様子を公開している。

付記

本活動は、中部大学特別研究 CG「社会情勢に対応した持続可能な学びの体系化 26IL01C G、吉田直子ほか 8 名) 及び中部大学現代教育学研究所「教育的人間力育成プロジェクトなるほど！子どもアカデミー」の研究経費の支援を受けた。

【配布資料】

平成 27 年現代教育学研究所研究発表会

「教育的人間力」育成プロジェクト＜なるほど！子どもアカデミー＞活動報告

(1) プロジェクトメンバー

代表：高木徹

メンバー：吉田直子、小笠原豊、橋本美彦、小池嘉志、三島浩路、古市真智子、
長尾寛子、味岡ゆい、(休会中：小熊伸一)

(2) 目的

「子どもアカデミー」活動の目的は、児童教育学科の教育課程を補完する課程外の活動として、学生の教育実践力、学びの意欲、地域貢献力などを育成するプログラムを開発し、その活動が学生の「教育的人間力」をはぐくむことを実証的に明らかにすることを目指す。また活動の継続を通して、最終的に持続可能な学びの体系化へとつなげていく。平成 27 年度は児童教育学科学生 48 名、教員 9 名が参加した。

(3) 活動の報告

年間の活動の柱を 2 つ立てた。1 つは教科教育の発展的学習支援を目指した「土曜チャレンジ・アップ教室」、もう 1 つは算数の学習理解度の向上支援を目指した「夏季学習支援」である。その他、活動期間中に学生対象の質問紙調査、3 カ月に 1 回の教員打ち合わせを行った。具体的な学生の活動内容は以下の通りである。場所はいずれも春日井市内の公立小学校へ出向き、活動は春日井市教育委員会のご支援をいただきながら行った。

・土曜チャレンジ・アップ教室

本活動のねらいは児童らが小学校で学習した内容を活かした企画を設定し、学習内容の応用を通して、児童らの発展的発想力を養うことである。公立小学校 3 校（KI 小学校・MA 小学校・KA 小学校）へ出向き、小学 4～6 年生 30 名を対象に、6 月～12 月、1 月～3 月（8 月除く）月に 1 回土曜日 2 時間、学生が企画した活動を行った。活動は、春日井市教育委員会より教材費のご支援、また公立小学校 3 校の校長先生及び教頭先生、企画管理指導者にご尽力いただき実施した。学生は活動当日までに、活動スケジュール及び活動企画書、児童配布資料の作成、さらに企画に関する教科理解などの企画研修を児童教育学科教員のもと受講し企画に臨んだ。また、活動当日の企画運営、記録は学生主体で行い、活動後には反省会を行い、月に 1 回の全体会では活動報告を通して学生間における学びの共有を図った。今年度の活動を通し、企画力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力など教育実践力に関する基礎形成を見出すことができた。今年度全 21 回の活動に対し、学生はのべ 217 人、児童はのべ 492 名（2016.2 現在、3 月 2 回実施予定）が参加した。

・夏季学習支援

本活動のねらいは夏休み期間にて 1 学期の学習内容（主に算数）の復習を行う学習相談日に参加する児童の学力補充を支援するとともに学習意欲を高めることである。公立 F 小学校へ出向き、小学 1～6 年生を対象に、7 月下旬の 3 日間の午前 90 分、算数学習指導を

行う担任教師の補助者として参加した。活動は F 小学校の校長先生の依頼を子どもアカデミーが受け、春日井市教育委員会のご支援のもと実施した。学生は児童教育学科教員から算数指導に関する講義を受け、活動へ参加した。今年度の活動を通し、教科指導力など教育実践力に関する基礎形成を見出すことができた。今年度 3 日間の活動に対し、学生はのべ 58 名、児童はのべ 62 名が参加した。

(4) 来年度の課題

平成 27 年度の活動は、大学へ小学生を招き開催した平成 26 年度までの活動とは異なり、小学校へ学生が出向いての活動であったため、学生の交通手段や企画準備物の搬入、搬出など従来なかった課題が浮上した。しかし、小学校内における活動は、学生の教育的実践力や学びの意欲を向上させる学科の教育課程を補完するプレ教育実習の場として期待が持てることから、学生の質問紙調査から分かった。そのため来年度は、学生が目指す活動のねらいと学生が得る効果を明確化し、学生の「教育的人間力」育成について実証的な検討を試みたい。

**「教育的人間力」育成プロジェクト
くなるほど！子どもアカデミー
2015年度報告**

プロジェクトメンバー
(代表) 高木 徹 吉田 直子、小笠原 豊、橋本 美彦、小池 嘉志、三島 浩路、
古市 真智子、長尾 寛子、味岡 紗也、小堀 伸一(休会中)

プロジェクトの目的

児童教育学科入学生
1年生 2年生 3年生 4年生
児童教育学科の正規教育課程
観察実習 小学校教育実習 介護等体験 教員採用試験 教職実践演習
教員

学びの意欲向上 教育実践力 他者と共生する力
学生の「教育的人間力」を育成するプログラムの開発とその実証

2015年度
I 学生の活動
・土曜チャレンジアップ教室(講義形式)
・夏季学習支援(個別指導)
II 質問紙調査

持続可能な学びの体系化

I 学生の活動 -土曜チャレンジ・アップ教室-
(講義形式での活動)

活動のねらい
教科教育の発展的学習支援→児童らの発展的発想力を養う

活動スケジュール
6～12月、1～3月(8月除く)、月に1回土曜日の午前中
公立小学校3校にて活動

企画立案(2015年度10テーマ)
企画研修(学科教員の指導)
活動企画書の作成
児童配布資料の作成
企画に対する教科理解 など

準備と企画の運営・記録
活動の反省(グループ及び全体)

全21回の活動に対し、
学生のべ217名、児童のべ492名(2016.2現在)が参加

II 質問紙調査 -土曜チャレンジ・アップ教室-
実施日:12月下旬
回答者:24名

【土曜チャレンジアップ教室を通して身についた力とその理由】

企画力(責任感・計画性・判断力など)
プレゼンテーション力(価値力・説得力・人前で話す能力・積極性など)
コミュニケーション力(子どもと接する能力・積極性など)

教育的人間力に関する基礎形成

I 学生の活動 -夏季学習支援- (個別指導での活動)

活動のねらい
1学期の学習内容(主に算数)の補充支援
→児童らの学習意欲の低下を防ぐ

活動スケジュール
7月下旬3日間の午前中、公立小学校1校にて活動

算数学習研修(学科教員の指導)
・1～6年生の算数指導法 など
小学校教員との事前打ち合わせ
活動
活動の反省(個人)

全3日間の活動に対し、
学生のべ58名、児童のべ62名が参加

II 質問紙調査 -夏季学習支援-
実施日:8月下旬
感想回収数:8名

【夏季学習支援を終えて(感想)】

自己理解
(大変・指導一筋しい、やる気一出せるなど)

主体性
(子ども一尊重一随機、経験一教える一指導 など)

教育的人間力に関する基礎形成

2016年度(H27)の活動に向けて

春日井市教育委員会
公立小学校
土曜チャレンジアップ教室
小学生(4～6年生)
月に1回、講義形式での活動

学習支援(個別指導)
小学生(1～6年生)
週に1回、個別指導での活動

地域連携
地域共生
地域貢献

2015年度の活動
【提供】プレ教育実習の場
・教育的人間力の基礎形成

子どもアカデミー
(P:教員)

2016年度の活動
・活動のねらい
・得る効果・能力
→学生の「教育的人間力」育成について実証的な検討

あとがきにかえて

「なるほど！子どもアカデミー」には春日井市内外から子どもたちが多数参加され、熱心に講座に取り組んでいただきました。知的な活気にあふれる講座となったことをこの場を借りてお礼申し上げます。

本活動全体は、9名の教員がそれぞれの専門性を生かしながら協同して推進しており、今後も継続していく予定です。主な役割分担として、全体統括、渉外を高木、概念、理論研究を吉田、学生への教科指導を高木・小笠原・橋本・小池・長尾・味岡、成果に関する調査研究を吉田・三島・古市、運営事務を吉田・古市・味岡が担当していますが、適宜全員で協議しながら進めました。本報告書もほぼ全員が何らかの形で執筆に関わっており、編集作業は主に味岡が行いました。

私たち教員の願いは、「なるほど！子どもアカデミー」という地域に根ざした課外活動において、教師を目指す学生たちが教職に関する実践力をさらに高め、人間的な成長を遂げていくことです。そのような仕組みとして「なるほど！子どもアカデミー」そのものも成長していければと願っています。

これからも地域や関係のみなさまのご支援をお願い致します。

2015 年度 「なるほど！子どもアカデミー」活動報告書

発行日 2016 年 3 月 31 日

編集・発行 中部大学現代教育学部児童教育学科
「なるほど！子どもアカデミー」
〒487-8501 愛知県春日井市松本町 1200
中部大学現代教育学部児童教育学科
TEL 0568-51-1111（代表）

代表 高木 徹